年 報 19

2002年度(平成14年度)

2003. 9

山梨県埋蔵文化財センター

年 報 19

2 0 0 2 年度 (平成 14 年度)

2003. 9

山梨県埋蔵文化財センター

昨年の秋9月、山梨県埋蔵文化財センター20周年記念行事「縄文トーク2002 in 山梨」が県民文化ホールで、600名を越える参加者の中、開催されました。私もゲストという立場で参加させていただきましたが、俳優の苅谷俊介さんの講演では、優れた造形の縄文土器や縄文人の生活について熱く語っていただきました。女優の竹下景子さんを加えてのパネルディスカッションでも、大塚初重前所長の司会で楽しく、個性的なトークを繰り広げていただき、多くの県民の方々を魅了したのではないかと思います。また、創立20周年記念展示会「the Jomon」では、山梨が世界に誇る文化遺産である縄文土器150個体を県民情報プラザに展示し、その素晴らしさを再認識する機会になったと考えています。そして、縄文土器の魅力とそれを取り巻く当時の人々の様子を感じ取ることの価値を、広く県民にアピールできたことと思います。

さて、2002年度の発掘調査では、例年の通り多くの貴重な資料を発見することができました。

甲府城下町遺跡では、江戸時代の陶磁器、井戸の跡、埋甕・埋桶(トイレ遺構)などの発見で、当時の武士の暮らしや甲府の様子がより解明されると期待されています。甲府城では、稲荷櫓台の修復が完了し、県民からは、櫓本体の完成が待ち遠しく感じられるという声が聞かれます。大木戸遺跡では、古墳・平安時代の住居跡、溝、縄文時代の土器捨て場に利用された谷が検出されました。谷は、1998年度に調査された集落跡と同時期のもので、集落跡と土器捨て場のセット関係が確認されています。宮の前遺跡では、縄文中期末から後期にかけての手鏡の形に石を敷き詰めた柄鏡形敷石住居や配石遺構が確認され、桂川流域の当時の状況がより鮮明になると思われます。鰍沢河岸跡においては、2001年度も出土して話題になった江戸時代の甲州金一分判が、2002年度も出土しました。火災による焼土・炭化物が広がる層も検出され、文政4年の御米蔵を全焼させた大火に関係する可能性が想定されています。

また、2000年度に発足した資料普及課は、2002年度で3年目を迎え、調査資料の整理・報告書作成、遺跡発表会、遺跡展、教育普及活動、収蔵庫の整理・管理を中心に活動しました。学校への教育普及活動は、小中学校における「総合的な学習の時間」の実施に伴い、出前授業、職場体験学習など2001年度よりも9件多い、21件の依頼を受けました。出前授業は、「土器作り」「火起こし」「縄文食作り」等が実施され、中には「竪穴住居作り」に挑戦した学校もあり、保護者の協力のもと、それぞれにすばらしいものが完成しました。また、昨年度多かった中学生の職場体験学習では、「土器の復元・実測」「拓本作業」などを短い時間ではありましたが、生徒達に貴重な体験をしていただくことができました。これらの事業は、本年度以降さらに増加すると思われますので、受け入れ態勢の整備をより一層図っていきたいと考えております。

山梨県埋蔵文化財センターは、昨年で20周年を迎えましたが、引き続き埋蔵文化財の保護や調査・研究・啓蒙普及活動などの役割を推進してまいりますと共に、新たな20年に向かい更に邁進していきたいと考えています。これからも一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

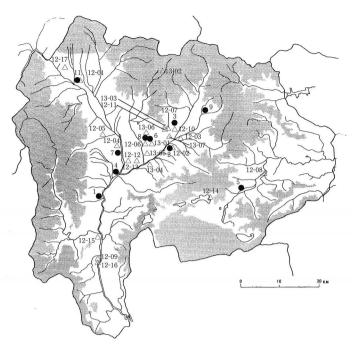
2003年9月

山梨県埋蔵文化財センター

所長 渡 辺 誠

目 次

Ι		02年度の事業概要	
]	l	発掘調査	1
2	2	整理作業	1
3	3	<u> </u>	2
4	1	収蔵資料の貸し出し及び掲載許可	4
Ę	5	所内研究グループ	
(ŝ	第15回市町村埋蔵文化財専門職員研修会	9
,	7	山梨県埋蔵文化財センター創立20周年記念事業	9
8	8	遺跡調査発表会	10
(9	山梨の遺跡展2002	11
1	.0	所内研修	11
1	.1	寄贈·購入図書 ······	12
П	各	-遺跡の発掘調査概要	
	1	鰍沢河岸跡 A · B · · · · · · · · · · · · · · · · ·	13
	2	原町農業高校前遺跡	17
	3	大木戸遺跡	19
	4	藤田池遺跡	21
	5	宮の前遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	23
	6	中沢遺跡・武家遺跡	25
	7	當代遺跡・大ネギ遺跡	27
	8.	埋蔵銭貨出十遺跡群詳細分布調査	29
	9	寺部村附第 9 · 中西第 3 遺跡 ·······	31
]	10	甲府城下町遺跡	33
1	11	甲府城跡	35
-	12	八ヶ岳東南麓遺跡群ほか遺跡分布調査	
Ш	進	具内の概況 	
	1	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	51
	2	県指定文化財 ·······	51
	3	調査体制	51
	9	川梨県埋蔵文化財発掘調査件数の推移(グラフ)・2002年度発掘調査一覧表	



2002年度 発掘調査遺跡位置図

凡例

- 1. 本書は、2002年度の山梨県埋蔵文化財センターの事業をまとめたものである。
- 2. 本書の編集は猪股一弘、田口明子が行った。
- 3. 2002年度の発掘調査一覧表および資料の記載 は2003年3月末日現在で集計したものであ る。
- 4. 第Ⅱ章各遺跡の発掘調査概要における発掘調査面積の()内は、調査対象面積である。
- 5. 左記の地図は、2002年度発掘調査遺跡の位置 図である。なお、地図中の番号は、1ページ の発掘調査の表に対応している。

2002(平成14)年度 職員組織

所					長	大	塚	初	重		総	務	課		
次					長	望	月	英	利	副	主	查	田邉	優	子
総	務	課	長	()	()	望	月	英	利	主	g	任	浅川	美	和
次					長	田	代		孝	主		任	矢 崎	和	子
調	查	研	究	課	長	坂	本	美	夫	主		事	折居		誠
資	料	普	及	課	長	小	野	正	文	業	務	員	久保川	-	三

調査研究課	有 1 担 当	調 査 研 究 課 第 2 担 当
副主幹・文化財主事	長 沢 宏 昌	副主幹 · 文化財主事 出月洋文
主・文化財主事	大 柴 鉄 哉	副主查·文化財主事 窪 田 昌 彦
副主査・文化財主事	浅 川 一 郎	主 任・文化財主事 笠原みゆき
主任・文化財主事	田口明子	主 任 · 文 化 財 主 事 宮 里 学
主任・文化財主事	小 林 孝 子	非常勤嘱託 宮久保真紀
主事・文化財主事	小 林 弘 典	非常勤嘱託 楠間美季江

調 査 研 究 課 第 3 担 当	調 査 研 究 課 第 4 担 当
副主幹・文化財主事 小 林 広 和	副主幹・文化財主事 保 坂 康 夫
主 查 · 文化財主事 猪 股 一 弘	副主查·文化財主事 斉藤 伸
副主査・文化財主事 小 林 稔	副主查·文化財主事 吉 岡 弘 樹
副主査・文化財主事 小 林 敏 徳	主 任 · 文化財主事 深 沢 容 子
副主査・文化財主事 村 石 眞 澄	主 任 · 文 化 財 主 事 森 原 明 廣
文 化 財 主 事 野代恵子	非常勤嘱託正木季洋
臨 時 職 員 一瀬一浩	
時 時 員 方 恕 次 →	

資料普及課第1担	当	資 料 普	及課第	2 担 当	
副主幹 · 文化財主事 米	田明訓副	主査・文化り	財 主 事	高 野 玄	明
主 任 · 文化財主事 今	福利恵主	査・文化り	財主事	三 森 鉄	治
主 任 · 文 化 財 主 事 三田	村 美 彦 主	任・文化り	財 主 事	保 坂 和	博
文 化 財 主 事 依	田 幸 浩 文	化 財	主事	網 倉 邦	生

I 2002年度の事業概要

1. 発掘調査

2002年度は10遺跡の発掘調査と、24事業に関わる試掘調査・立ち会い調査、1つの分布調査を行った。発掘調査の原因は、道路建設5、建物建設4、史跡整備1となる。これらの調査は4月上旬から3月下旬まで行われ、主として12月以降を基礎的整理期間とした。各遺跡の概要は、第Ⅱ章で述べることとする。

番号	遺 跡 名 他	番号	遺跡名他
1	鳅沢河岸跡 A·B	2	當代遺跡・大ネギ遺跡
3	中沢遺跡・武家遺跡	4	藤田池遺跡
5	宮の前遺跡	6	甲府城跡〔県指定史跡〕
7	寺部村附第9 · 中西第3遺跡	8	甲府城下町遺跡
9	大木戸遺跡	10	埋蔵銭貨出土遺跡群詳細分布調査
11	原町農業高校前遺跡		

・八ヶ岳東南麓遺跡群ほか遺跡分布調査

番号	遺 跡 名 他	番号	遺 跡 名 他
12-01	北杜高校内弓道場・投球練習場建設工事に伴う試掘	12-02	山梨県立博物館(仮称)建設事業に伴う試掘調査
	調査		
12-03	日川高校仮設校舎建設工事に伴う試掘調査	12-04	新環状・西関東道路建設工事に伴う試掘調査(寺部)
12-05	あけぽの医療福祉センター再整備建設工事に伴う試	12-06	甲府地方裁判所改築工事に伴う試掘調査
	掘調査		
12-07	新環状・西関東道路建設工事に伴う試掘調査(中川田)	12-08	都留警察署職員待機宿舎建設工事に伴う試掘調査
12-09	大野築堤護岸工事に伴う試掘調査 (1次)	12-10	新環状・西関東道路建設工事に伴う試掘調査(足原田)
12-11	西関東連絡道路建設工事に伴う試掘調査	12-12	新環状道路建設工事に伴う試掘調査(小井川)
12-13	新環状道路建設工事に伴う試掘調査(中田)	12-14	国道137号河口2期バイパス建設工事に伴う試掘調査
12-15	焔硝蔵遺跡公園整備に伴う試掘調査	12-16	大野築堤護岸工事に伴う試掘調査(2次)
12-17	山梨県酪農試験場内堆肥盤建設工事に伴う試掘調査	13-01	県庁構内改良工事に伴う立ち会い調査
13-02	砂防堰堤建設工事に伴う立ち会い調査	13-03	西関東道路工事用仮橋建設工事に伴う立ち会い調査
13-04	整理用プレハブ設置工事(基礎)に伴う立ち会い調査	13-05	甲府市中央郵便局増築工事に伴う立ち会い調査
13-06	甲府駅北口県職員駐車場外周部他改修工事・武田通	13-07	青い鳥老人ホーム建設工事に伴う立ち会い調査
	り拡幅工事に伴う立ち会い調査		

2. 整理作業

整理作業は、主に2002年度調査した遺跡の基礎的整理作業と本格的整理作業及び報告書作成を以下のとおり 行った。

1)基礎的整理作業

2) 本格的整理作業

3)報告書作成作業

番号	遺跡名	番号	遺跡名	番号	遺跡名
1	鰍沢河岸跡 A·B	1	百々遺跡2・4	1	大木戸遺跡
2	寺部村附第9 · 中西第3遺跡	2	百々遺跡3・5	2	北河原遺跡・野牛島大塚遺跡
3	甲府城跡〔県指定史跡〕	3	酒吞場遺跡	3	道々芽木遺跡
4	甲府城下町遺跡	4	原町農業高校前遺跡	4	藤田池遺跡
5	埋蔵銭貨出土遺跡群詳細分布調査	5	日向町第2遺跡	5	酒吞場遺跡
		6	中沢遺跡・武家遺跡	6	宮の前遺跡
		-		7	當代遺跡・大ネギ遺跡
				8	甲府城跡〔県指定史跡〕

3. 資料普及課の事業

2000年度に新設された資料普及課は、2002年度で3年目を迎え、1課2担当、課長以下9名で構成されている。主な事業は、調査資料の整理及び報告書作成、遺跡発表会、遺跡展、学校教育、生涯学習に対応した教育普及活動、収蔵庫の整理・管理などがある。学校等への教育普及活動は、出土品の活用を推進するという埋蔵文化財行政の課題や、小中学校における「総合的な学習の時間」の実施の取り組みにより、主に出前授業、職場体験など学校側からの依頼を受け対応している。また、遺跡概説書作成が2年計画で2001年度より行われており、2002年度は3地域について作成した。

出前授業は、2001年度同様、学校等からの依頼に基づき講師派遣の形態をとり、2002年度は主に土器づくり、 火起こし、縄文食づくり等の体験学習が実施されている。また、小規模校ではありながら、竪穴住居づくりに チャレンジした学校もあり、父兄等の協力を得るなどし、見事に完成した学校もみられた。2002年度の傾向と して多かったのが、中学生による職場体験があげられる。内容は、主に室内による整理作業を中心に計画して 行った。生徒達は短い時間の中であったものの土器の復元や実測、拓本作業などを体験した。前述した出前授 業や体験学習など、2002年度において21件の依頼があり、2001年度に比べ9件多い状況であった。2003年度以 降、学校側からの依頼がさらに増えることが予想され、受け入れ態勢や対応等どのようにしていくか課題が残 る。

遺跡概説書は「身近な古代を調べよう―ワークシート概説書―」と題して2001年度から2年計画で、県内各地域ごとの遺跡を、遺構・遺物の写真により紹介し、本書をきっかけとして埋蔵文化財にふれあう中で、身近にある先祖の遺跡や遺物を知ることで、地域の歴史や文化により高い関心をもってもらおうと、小中学校を始めとする県内教育関係機関へ配布するものであり、2001年度は、北巨摩郡、中巨摩郡、甲府地域、2002年度は、東山梨地域、東八代郡、郡内地域について作成した。

収蔵庫の整理・管理は、2001年度より報告書作成が終了した遺跡の遺物について収蔵庫内へ遺跡ごと報告書 掲載順にプラ箱に整理し、収納場所を随時検索可能とするため、管理データベース化を図っている。



竪穴住居づくり(増穂西小学校)



古墳の実測(駿台甲府中学校)



土器づくり(相川小学校)



職場体験(笛南中学校)

1. 出前授業一覧

番号	学校名	活動の種類	日 程	時間	対象児童・	生徒数	職員数	学 習 内 容	土器作り	古土の種別	火丸	起こした	方法
4 7	(所在地)	1日30771至79(市販	地元	火打式	舞錐式	弓錐
		総合学習			全6年生(1クラス)		3名	土器づくり	0				
1	笹子小学校 (大月市)				全6年生(1クラス)		2名	土器焼き・火起こし			0		
-		概一砂と粘土	:の混合に時間が	がかかっ	てしまい、一部の生	E徒において文材	兼付けの 時	間が少し足りない状況であった。					
					るなどのケースが見								
_	玉宮小学校	総合学習	7月 9日 :	5.0時間	全6年生(1クラス)	6名	l名	火起こし・道具作り(石斧)・布編			0		
2	(塩山市)	概 縄文時代					(火起こし	、道具作り(石斧)、布を編む)に分っ	かれてお	こなった	÷.		
	日本道路公団	公団記念事業			東京都港区内の親子			土鈴づくり体験	0				
3	東京建設局	概 道路公団 要 物やパネ	ル展示など、8	30 ±	まで行われた。また、	,体験会として	ミイベント 8/9には、	が催され、山梨県では中部横断道建設 土鈴作りが開かれた。	こ伴い発	図調査さ	された百	マ遺跡	「のi
					全6年生(1クラス)		1名	竪穴住居づくりにあたり、見学勉強会					
		総合学習			全6年生(1クラス)		1名	午前:土器づくり、午後:石器づくり	0				
4	增穗西小学校 (増穂町)	WO U T H			全6年生(1クラス)		2名	竪穴住居づくり					
7					全6年生(1クラス)		2名	竪穴住居屋根葺き					
					石鏃などの作製に挑								
		要 竪穴住居	づくりについて	て、町有	林からヒノキを生徒	達が伐採し調達	差、カヤは	地域住民による提供など、数多くの人	マの協力が	があり岩	己成した		
	押原中学校	選択学習	9月12日 1	1.5時間	2年生(選択社会)	11名		縄文土器づくり	0				i
5	(昭和町)	概	を事前に混ぜる	うわせて	あったため、比較的	短時間で作製で	ごきた。						
	. 1 . 454 1 . 314		10月15日 ().5時間	全5年生114名		1名	土器づくりにむけての講義					
		総合学習			全5年生114名		7名	縄文土器づくり	0				
6	山梨大学 付属小学校	松口子目	11月12日 3	3.0時間	全5年生114名		4名	土器焼き					
٠	(甲府市)		11月19日 3	3.0時間	全5年生114名		4名	縄文食づくり					
	, , , , , , , ,	概 ダ 出向いて	器をつくろう〉 指導を行った。	- 火の 子供達	利用と実用 - と題し にとって、土器づく	て全20時間のカ りより、食べ物	リキュラ	ムが組まれており、上記の4項目の授業 味がわいていたようだ。	において	埋蔵文	化財セ	ンター	敗員;
		•			全6年生84名			粘土採取の仕方や縄文土器づくりの講	茂				
			11月22日 1	.5時間	全6年生84名			生徒個人が探してきた粘土の判定		0			
	17111 1 MALL	総合学習	12月 2日 3	3.0時間	全6年生84名		7名	土器づくり (各クラス毎)		Õ			
7	相川小学校 (甲府市)	1	12月24日 3	3.0時間	全6年生84名		5名	土器焼き					
	(4) (4)		1月24日 3	3.0時間	全6年生84名		3名	縄文食づくり					
		概 相川小学 要 クッキー	校周辺には、良 ・団子スープ)	と 好な粘 を土器	土が採取できること 煮と石焼きで行い調	から、生徒個人 理後に実食。	により料	:土を準備することからはじめた。縄文1	は、各理	Eで調へ	た縄文	料理(縄文
	百田小学校	地域学習	11月6日 1	.0時間	社会科地域学習研究	会会員8名	1名	百々遺跡について					
8	(南アルプス市) (旧白根町)	概 発掘調査	で明らかにされ	た百々	遺跡の様子から、南	アルプス市(IE	1白根町)	百々地区の古代の様子について学習した	÷.				
		661 A AVA TIP	12月18日 2	. 5時間	1年生50名		1名	火起こし	T		0		
9	験台甲府中学校	総合学習			1年生50名		1名	土器焼き	1		0		
9	(甲府市)	概 職員1名	であったため、	対応に	苦慮する状況があっ	た。					0 1		
	11	総合学習	2月10日 1	.0時間	1年生(4クラス)	135名	1名	「甲府城の歴史について」		Т			
10	北東中学校 (甲府市)	HAVE			して、県史跡「甲府					1			

2・職場体験・体験学習一覧

4、似物体缺,体验	牙件狭 "件款"	子百一鬼					
番号 学校名 (所在地)		舌動の種類	日 程	時間	対象児童・生徒数	職員数	学 習 内 容
1 大塚小学校 (三珠町)		郊外学習	6月13日	1.0時間	6年生13名	l名	職場見学・業務内容の説明。
2 北中学校 (甲府市)		職場体験	7月10日	7.0時間	4名	1名	里吉整理室において業務内容の説明。縄文土器の接合(原町農業高校前遺跡)
3 験台甲府中学校 (甲府市)		体験学習	7月12日	2.0時間	1年生77名(3クラス)	4名	古墳の実測と円形周溝墓の平板測量。測量器具を使用するなど、測量方法 を学び実習。(銚子塚・岩清水遺跡の円形周溝墓)
4 笛南中学校 (中道町)		職場体験	7月26日	7.0時間	1年生3名	1名	職場・施設見学。遺物の接合・拓本作業・断面実測・トレース作業などを 体験。(日向町第2遺跡、原町農業高校前遺跡)
5 御坂町 教育委員会		体験学習	8月 1日	2.0時間	小学校高学年25名	2名	縄文・弥生時代の衣食住についての講義の後、火起こし体験。火起こしと 併行し、弥生土器を使用した赤米の炊飯実験を行った。
甲西中学校 6 (南アルプス市) (旧甲西町)	アルプス市) 耳	職場体験	8月 1日	7.0時間	1年生3名	l名	職場・施設見学。縄文土器の拓本・断面実測実習(花鳥山遺跡)。 平安時代の土器の実測(実測機使用)・トレース作業(百々遺跡)。
7 双葉中学校 (双葉町)		職場体験	8月 6日	3.0時間	2年生1名	l名	職場・施設見学。遺物の接合・拓本・断面実測(原町農業高校前遺跡)。 遺物実測(実測機使用)・トレース作業(日向町第2遺跡)。
8 押原中学校 (昭和町)		職場体験	8月 6日	7.0時間	3年生6名	1名	里吉整理室において業務内容の説明、縄文土器接合(原町農業高校前遺跡)
9 山梨英和中学校 (甲府市)		職場体験	10月16・17日	7.0時間	3年生2名	.2名	職場・施設見学。縄文土器の接合等(大木戸遺跡)。
10 浅川中学校 (八代町)		職場体験	11月14日	7.0時間	2年生1名	2名	職場・施設見学。縄文土器の接合等(大木戸遺跡)。
11 西中学校 (甲府市)		職場体験	11月25日	3.0時間	1年生4名	l名	職場・施設見学。主に生徒からの質問を中心に、縄文土器・古銭等の拓本 作業。
((双葉町) 即原中学校 (昭和町) 以英和中学校 (甲府市) 別川中学校 (八代町) 西中学校 (甲府市)	職場体験 職場体験 職場体験	8月 6日 10月16·17日 11月14日	7.0時間 7.0時間 7.0時間	3年生6名 3年生2名 2年生1名	1名 2名 2名	遺物実測(実測機使用)・トレース作業(日向町第2遺跡)。 里吉整理室において業務内容の説明、縄文土器接合(原町農業高 職場・施設見学。縄文土器の接合等(大木戸遺跡)。 職場・施設見学。縄文土器の接合等(大木戸遺跡)。 職場・施設見学。縄文土器の接合等(大木戸遺跡)。 職場・施設見学。主に生徒からの質問を中心に、縄文土器・古金

3・道具貸出許可一覧

番号	申請校	貸出期間	日 程	利用目的
1	東八代郡社会教育推進協議会		火起こし道具(火打ち金5点、火打ち石5点)	東八代郡考古学出前教室(八代小学校)
9	東八代郡社会教		代郡社会教育推進協議会文化財担当者部会による出前教室に使用。 火起こし道具(火打ち金5点、火打ち石5点)	御坂町ふるさと子供まつり(御坂町花鳥スポーツ広場)
	育推進協議会		代郡社会教育推進協議会文化財担当者部会による出前教室に使用。	
3	増穂西小学校 (増穂町)			総合学習
	(単位の))		学習の一環として、縄文時代の料理づくり(ドングリクッキー作成	
4	御坂町			御坂町ふるさと子供まつり(御坂町花鳥スポーツ広場)
•	教育委員会	備考 御坂	「町ふるさと祭り実施に伴い、東八代郡内の埋蔵文化財担当者協力の	下、火起こし体験に使用。
5	験台甲府中学校	11月15日	火起こし道具(火打ち金6点、火打ち石6点、火口6点)	実験考古学の教材
	(甲府市)	備考 1年	生による火起こし体験を通じ原始・古代の人々の道具と生活のあり	方を学習する。

4. 収蔵資料の貸し出し及び掲載許可一覧

貸出許可2002年度一覧(申請許可順)

番号 貸出期間		可物件名	申 請 者	利用目的
1 4. 1~H15. 3. 31	金生遺跡出土	縄文土器ほか出土品278点	大泉村教育委員会	大泉村歴史民俗資料館常設原
	城下遺跡出土			に展示のため
	天神遺跡出土		-	
2 4. 1~H15. 3. 31	郷蔵地遺跡出土	深鉢形土器(縄文)2点	明野村教育委員会	明野村埋蔵文化財センターに
	"	三角とう土製品1点	(明野村埋蔵文化財センター)	展示のため
	"	石棒 2 点		
	"	丸石1点		
3 4. 1~H15. 3. 31	重郎原遺跡出土	縄文土器38点	塩山市教育委員会 .	市民文化会館資料展示室に
4 4. 1~H15. 3. 31	大師東丹保遺跡出土	クルミ(弥生・鎌倉)	(財) 山梨県公園公社	笛吹川フルーツ公園内地下
	"	カヤ (弥生)		示施設果物館に展示のため
	"	トチ (弥生)		
	"	桃 (鎌倉)		
5 4. 16~6. 14	鰍沢河岸跡出土	陶磁器 9 点	豊富村教育委員会	春季企画展「豊富村と酒の
	宮沢中村遺跡出土	陶磁器 9 点	(豊富村郷土資料館)	化」に展示のため
	塩川遺跡出土	陶磁器 2 点		
	金の尾遺跡出土	有孔鍔付土器(縄文)1点		
	並*//七度助/山工	土器模造品1点		
6 5 15~10 14	トの正書助中土	土偶1点	(株)NHKプロモーション	
6 5. 15~10. 14	上の平遺跡出土	工術1点 縄文土器(深鉢) 2 点	(MANATHY) H C \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \	展示するため
	甲ッ原遺跡出土			水小りるため
7 7 00 0 00	一の沢遺跡出土	土偶 (レプリカ) 1点 坏 (土師器) 1点	釈迦堂遺跡博物館	 巡回展「山梨の遺跡展」に
7 7. 26~8. 30	五反田遺跡出土		<u> </u>	元日成「田米の遺跡成」に
	"	皿(土師器) 2 点		小りるため
	//	緑釉陶器(椀)1点		
	銚子塚古墳出土	壷形埴輪 2 点		
	"	円筒形埴輪1点		
	甲府城跡出土	五輪塔1点		
	"	土鈴1点		
	"	線刻画付石垣石材1点		
	"	軒丸瓦3点		
	"	軒平瓦2点		
	"	浅瓦1点		
	"	鎹1点		
	"	矢穴石材 1 点		
	,,	白1点		
	,,	土製狐1点		
	原町農業高校前遺跡出土	有孔鍔付土器(縄文)1点		
	水 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	深鉢形土器(縄文) 2 点	:	
	,,	ミニチュア土器(縄文)5点		
	,	土製匙3点		
	, "			
	,	耳栓3点		
	/	土偶 5 点		
	"	石鏃12点		
	"	石匙1点		
	"	打製石斧1点		
	"	磨製石斧1点		
	"	石錐 7 点		
	鰍沢河岸遺跡出土	土瓶(ミニチュア)1点		
	"	灯明皿3点		
	"	泥面子22点		
	"	土製狐 3 点		
	"	磁器 (手描き) 1点		
	,,	磁器(型紙)1点		
	,,	磁器(銅板)1点		
	,	赤瓦 3 点		
8 9, 20~12, 29	三光遺跡出土	お見る点 ヒスイ大珠 (レプリカ) 1点	釈迦堂遺跡博物館	特別展「海の民と山の民」
J. 20 -12, 29		ヒスイ大珠(レンリル) 1点	小 (大京 寺) 安 南川 山山 () 東日	展示するため
	大月遺跡出土			灰小するため
	頭無遺跡出土	大珠1点		
	//	深鉢形土器(縄文)3点		
	上の平遺跡出土	「の」の字形石製品2点		
	酒呑場遺跡出土	「の」の字形石製品1点	1	1

肾号	貸出期間		可 物 件 名	申 請 者	利用目的
		酒吞場遺跡出土	鮫歯形石製品1点		
		"	貝輪形土製品1点		
		豆塚遺跡出土	猪牙形石製品1点		
		柳坪遺跡出土	深鉢形土器(縄文)1点		
		宿尻遺跡出土	深鉢形土器(縄文) 2 点		
		北掘遺跡出土	深鉢形土器(縄文)1点		
		国分遺跡出土	深鉢形土器(縄文)1点		
		甲ッ原遺跡出土	深鉢形土器 (縄文) 1点		
9	5. 29~6. 19	上の平遺跡出土	ナイフ (旧石器) 2点	昭和町立押原中学校	社会科の授業で使用するため
		,	コア(旧石器)1点		
		東山北遺跡出土	ナイフ(旧石器)1点		
		米倉山B遺跡出土	ナイフ (旧石器) 4点		
10	7. 16~9. 27	横針前久保遺跡出土	局部磨製石斧(旧石器)1点	笠懸野岩宿文化資料館	第35回企画展「最古の磨製を
		"	ナイフ(旧石器) 2点		器一岩宿時代 I 期の斧形石岩 の謎一」
11	8. 23~8. 25	塩部遺跡出土	焼夷弾1点	山梨県戦争遺跡ネットワーク	第6回全国戦争遺跡保存シ ポジウムで展示するため
12	9. 11~9. 15	甲ッ原遺跡出土	深鉢形土器(縄文)1点		地理·歴史科「日本史B」
-	0. 11 0. 10	上の平遺跡出土		WENCE OF THE STATE	授業で使用するため
		金の尾遺跡出土	壺形土器 (弥生) 1点		12710 1 12711 7 0 12 13
		/	土器破片 9 点		
13	10, 12~12, 10	塩部遺跡出土	器台ほか(土師器) 5点	豊富村教育委員会	
	12. 10	/ /	馬歯6点	(豊富村郷土資料館)	の馬の文化」に展示するため
		東山北遺跡出土	甕ほか(土師器) 7点		1 1 2 1 1 2 1 2 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2
		/ / / / / / / / / / / / / / / / / / /	鉄製鎌1点		
		,,	土製勾玉 3 点		
		狐原遺跡出土	墨書土器 3 点		
		金峰山頂遺跡出土	土馬1点		
		が	懸仏1点		
		道々芽木遺跡出土	土馬1点		
		豆塚遺跡出土	土馬1点		
		//	土猿1点		
		百々遺跡出土	馬歯 2 点		
14	10. 18~11. 20	亀甲塚古墳出土	管玉一式	小林孝子	エックス線写真撮影で穿孔ス
					法を確認するため
15	10. 7~10. 24	甲ッ原遺跡出土	石皿 3 点	増穂町立増穂西小学校	総合学習で使用するため
		,,	磨石 3 点		
16	11. 28~1. 31	鰍沢河岸跡出土	磁器(手描き) 5 点	釈迦堂遺跡博物館	企画展「鰍沢河岸」に展示
		"	磁器(型紙)11点		るため
		,,	磁器(銅板)32点		
		* ***	赤瓦9点		
		<i>"</i>	ガラス瓶23点		
		"	泥面子14点		
17	11. 29~12. 2	酒吞場遺跡出土	台形土器(縄文) 5 点	山梨県考古学協会	研究集会「土器から探る縄」
					社会」で展示するため
18	12. 20~	中谷遺跡出土	深鉢形土器(縄文) 4 点	都留市教育委員会	企画展「古代の旅~ふるさと
	H15, 2, 18	"	注口土器(縄文) 7 点	(都留市博物館「ミュージアム都留」)	遺跡展~」に展示するため
		"	蓋形土器(縄文) 1 点		
19	1. 20~3. 31	加牟那塚古墳出土	埴輪片1点	八田村教育委員会	村保管資料と胎土分析によ
					比較調査を行うため
20	3. 25~4. 25	上の平遺跡出土	土偶1点	(株)NHKプロモーション	「岡本太郎と縄文展」に展
		宮の前遺跡出土	深鉢形土器 1 点		のため
		甲ッ原遺跡出土	深鉢形土器1点		
		一の沢遺跡出土	土偶1点 (レプリカ)		
21	16. 1. 7~3. 26	殿林遺跡出土	深鉢形土器1点(重文)	郡山市立美術館	「原始美術の華 縄文土器の:
		一の沢遺跡出土	深鉢形土器1点(重文)		形展」に展示のため
		重郎原遺跡出土	深鉢形土器1点		
		安道寺遺跡出土	深鉢形土器1点		
		安道寺遺跡出土	深鉢形土器1点		
22	4. 1∼H16. 3. 31	金の尾遺跡出土	壷形土器1点	山梨中銀金融資料館	「貨幣史コーナー」に展示
		花鳥山遺跡出土	石鏃10点		るため
23	4. 1~H16. 3. 31	横堀遺跡出土	土器・石器182点	白根町教育委員会	「白根桃源美術館付属展示室
		百々遺跡出土	土師器21点		に展示するため
				1	
1					1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1

写真資料の貸出並びに掲載許可一覧

1	申請日	申 請 者	利 用 目 的	申 請	物 件 名
	4月5日	豊富村教育委員会	豊富村郷土資料館平成14年度春期企画展「豊富村	塩川遺跡	17号墓壙全景写真
1			と酒の文化」に展示のため		21号墓壙全景写真
2	4月12日	山梨日日新聞社	「山梨の歴史を読み直す」に掲載するため	寺所遺跡	甕
					のこぎり
					やっとこ
				二之宮遺跡	鉄製紡錘車
				東原遺跡	小鍛冶遺構
				酒吞場遺跡	漆塗り土器
				甲ッ原遺跡	漆塗り土器
				金の尾遺跡	遺跡調査風景
				甲府城跡	復元風景
3	4月15日	株式会社NHKプロモーション	「岡本太郎と縄文展」展示図録に掲載するため	甲ッ原遺跡	深鉢形土器
				上の平遺跡	土偶
4	4月17日	株式会社 角川書店	「角川日本陶磁大辞典」に掲載するため	殿林遺跡	深鉢形土器
5	5月22日	朝日新聞社出版局	「週刊朝日百科 日本の歴史」に掲載するため	上野原遺跡	大把手付深鉢
				天神遺跡	深鉢形土器
				釈迦堂遺跡	土偶集合写真
				上の平遺跡	方形周溝墓群
				一の沢遺跡	浅鉢
6	5月24日	富沢町教育委員会	富沢町史に掲載するため	天神堂遺跡	礫群
7	5月30日	天理市教育委員会	史跡黒塚古墳展示館開館記念行事の冊子に掲載す	鳥居原狐塚古墳	赤烏元年銘神獣鏡
			るため		
8	6月3日	株式会社 小学館	「考古資料大観 第2巻 弥生・古墳時代 土器	村前東A遺跡	土器一括
~	*,, V H	1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 -	Ⅱ に掲載するため	米倉山B遺跡	S字甕
			*3 1-10-44 / .6 /C.2	上の平遺跡	大型甕3点
9	6月4日	釈迦堂遺跡博物館	特別展「海の民と山の民」に展示するため	三光遺跡	ヒスイ大珠(複製品)
J	0万4日	1/1/25至尾吻门子彻路	1970年(時かれて田が氏」に改小りるだめ	二兀退跡 中溝遺跡	ヒスイ大珠(複製品)
					ヒスイ大珠
	1			頭無遺跡	ビス1大珠 のの字形垂飾
				上の平遺跡	
				酒吞場遺跡	のの字形垂飾
				酒吞場遺跡	サメの歯形石製品
				酒吞場遺跡	貝輪形土製品
				豆塚遺跡	イノシシ牙製垂飾
				頭無遺跡	加曽利E式土器
				柳坪遺跡	加曽利E式土器
				宿尻遺跡	加曽利E式土器
				北堀遺跡	加曽利E式土器
10	6月23日	財団法人 広島市文化財団	広島市郷土資料館特別展「広島の地酒~歴史と文化	一の沢遺跡	有孔鍔付土器
			~」に展示するため	酒呑場遺跡	有孔鍔付土器
				中谷遺跡	注口土器
				天神遺跡	有孔浅鉢
11	6月24日	株式会社 ジャパン通信情報センター	「文化財発掘出土情報」2002年8月号に掲載するた	甲府城下町遺跡	井戸跡
		休式会社 ジャハン連信情報センター	め		
12	7月9日	朝日新聞社事典編集部	「博物館・美術館・動植物園ガイド」(仮) に掲載	考古博物館	施設外観
			のため	考古博物館	展示室内
				安道寺遺跡	有孔鍔付土器
10	7月10日			10.11.11.1.1.1.1	AA
13	7月10日	笠懸野岩宿文化資料館	第35回企画展「最古の磨製石器-岩宿時代 I 期の	│ 横針前久保遺跡	石斧
13	77100	笠懸野岩宿文化資料館		横針前久保遺跡	
13		笠懸野岩宿文化資料館 嵐山町教育委員会	斧形石器の謎-」図録に掲載するため	横針前久保遺跡 金生遺跡	右介 ナイフ形石器 中空土偶
14	7月30日	嵐山町教育委員会	斧形石器の謎-」図録に掲載するため 嵐山町博物誌 第4巻 原始・古代編	金生遺跡	ナイフ形石器 中空土偶
14 15	7月30日 8月29日	嵐山町教育委員会 株式会社 ライブアド	斧形石器の謎ー」図録に掲載するため 嵐山町博物誌 第4巻 原始・古代編 「へきなんたんトビア」常設展示に使用するため	金生遺跡 宮の前遺跡	ナイフ形石器中空土偶釣手土器
14	7月30日	嵐山町教育委員会	斧形石器の謎-」図録に掲載するため 嵐山町博物誌 第4巻 原始・古代編	金生遺跡	ナイフ形石器中空土偶釣手土器9号住居
14 15	7月30日 8月29日	嵐山町教育委員会 株式会社 ライブアド	斧形石器の謎ー」図録に掲載するため 嵐山町博物誌 第4巻 原始・古代編 「へきなんたんトビア」常設展示に使用するため	金生遺跡 宮の前遺跡 大塚遺跡	ナイフ形石器 中空土偶 釣手土器 9号住居 9号住居遺物出土状況
14 15	7月30日 8月29日	嵐山町教育委員会 株式会社 ライブアド	斧形石器の謎ー」図録に掲載するため 嵐山町博物誌 第4巻 原始・古代編 「へきなんたんトビア」常設展示に使用するため	金生遺跡 宮の前遺跡	ナイフ形石器 中空土偶 釣手土器 9号住居 9号住居遺物出土状況 道路跡
14 15	7月30日 8月29日	嵐山町教育委員会 株式会社 ライブアド	斧形石器の謎ー」図録に掲載するため 嵐山町博物誌 第4巻 原始・古代編 「へきなんたんトビア」常設展示に使用するため	金生遺跡 宮の前遺跡 大塚遺跡	ナイフ形石器 中空土偶 釣手土器 9号住居 9号住居遺物出土状況 道路跡 出土遺物
14 15	7月30日 8月29日	嵐山町教育委員会 株式会社 ライブアド	斧形石器の謎ー」図録に掲載するため 嵐山町博物誌 第4巻 原始・古代編 「へきなんたんトビア」常設展示に使用するため	金生遺跡 宮の前遺跡 大塚遺跡 石橋北屋敷遺跡	ナイフ形石器 中空土偶 釣手土器 9号住居 9号住居遺物出土状況 道路跡 出土遺物 土壙
14 15	7月30日 8月29日	嵐山町教育委員会 株式会社 ライブアド	斧形石器の謎ー」図録に掲載するため 嵐山町博物誌 第4巻 原始・古代編 「へきなんたんトビア」常設展示に使用するため	金生遺跡 宮の前遺跡 大塚遺跡	ナイフ形石器 中空土偶 釣手土器 9号住居 9号住居遺物出土状況 道路跡 出土遺物 土土壙 2区空撮
14 15	7月30日 8月29日	嵐山町教育委員会 株式会社 ライブアド	斧形石器の謎ー」図録に掲載するため 嵐山町博物誌 第4巻 原始・古代編 「へきなんたんトビア」常設展示に使用するため	金生遺跡 宮の前遺跡 大塚遺跡 石橋北屋敷遺跡	ナイフ形石器 中空土偶 釣手土器 9号住居 9号住居遺物出土状況 道路跡 出土遺物 土地 2区空撮 土師器集合写真
14 15	7月30日 8月29日	嵐山町教育委員会 株式会社 ライブアド	斧形石器の謎ー」図録に掲載するため 嵐山町博物誌 第4巻 原始・古代編 「へきなんたんトビア」常設展示に使用するため	金生遺跡 宮の前遺跡 大塚遺跡 石橋北屋敷遺跡	ナイフ形石器 中空土偶 釣手土器 9号住居 9号住居遺物出土状況 道路跡 出土遺物 土壙 2区空撮 土師器集合写真 2区出土土器
14 15	7月30日 8月29日	嵐山町教育委員会 株式会社 ライブアド	斧形石器の謎ー」図録に掲載するため 嵐山町博物誌 第4巻 原始・古代編 「へきなんたんトビア」常設展示に使用するため	金生遺跡 宮の前遺跡 大塚遺跡 石橋北屋敷遺跡 立石下遺跡	ナイフ形石器 中空土偶 釣手土器 9号住居 9号住居遺物出土状况 道路跡 出土遺物 土壙 2区空場 土師器集合写真 2区出土土器 2区7号住居出土奈良三彩
14 15	7月30日 8月29日	嵐山町教育委員会 株式会社 ライブアド	斧形石器の謎ー」図録に掲載するため 嵐山町博物誌 第4巻 原始・古代編 「へきなんたんトビア」常設展示に使用するため	金生遺跡 宮の前遺跡 大塚遺跡 石橋北屋敷遺跡	ナイフ形石器 中空土偶 釣手土器 9号住居 9号住居遺物出土状况 道路跡 出土遺物 土壙 2区空撮 土師器集合写真 2区出土土器 2区7号住居出土奈良三彩 全景
14 15	7月30日 8月29日	嵐山町教育委員会 株式会社 ライブアド	斧形石器の謎ー」図録に掲載するため 嵐山町博物誌 第4巻 原始・古代編 「へきなんたんトビア」常設展示に使用するため	金生遺跡 宮の前遺跡 大塚遺跡 石橋北屋敷遺跡 立石下遺跡	ナイフ形石器 中空土偶 剪手土器 9号住居 9号住居遺物出土状況 道路跡 出土遺物 土壙 2区空撮 土師器集合写真 2区出土土器 2区7号住居出土奈良三彩 全景 3区足跡
14 15	7月30日 8月29日	嵐山町教育委員会 株式会社 ライブアド	斧形石器の謎ー」図録に掲載するため 嵐山町博物誌 第4巻 原始・古代編 「へきなんたんトビア」常設展示に使用するため	金生遺跡 宮の前遺跡 大塚遺跡 石橋北屋敷遺跡 立石下遺跡	ナイフ形石器 中空土偶 釣手土器 9号住居 9号住居遺物出土状況 道路跡 出土遺物 土壙 2区空撮 土師器集合写真 2区出土土器 2区プ号住居出土奈良三彩 全景 3区足跡 参道
14 15 16	7月30日 8月29日 9月10日	嵐山町教育委員会 株式会社 ライブアド 八田村教育委員会	条形石器の謎ー」図録に掲載するため 嵐山町博物誌 第4巻 原始・古代編 「へきなんたんトビア」常設展示に使用するため 八田村文化財冊子(仮称)に掲載するため	金生遺跡 宮の前遺跡 大塚遺跡 石橋北屋敷遺跡 立石下遺跡	ナイフ形石器 中空土偶 剪手土器 9号住居 9号住居遺物出土状況 道路 出土遺物 土埃 2区空場 土師器集合写真 2区出土土器 2区7号住居出土奈良三彩 全景 3区足跡 参道 水田
14 15	7月30日 8月29日	嵐山町教育委員会 株式会社 ライブアド	斧形石器の謎ー」図録に掲載するため 嵐山町博物誌 第4巻 原始・古代編 「へきなんたんトピア」常設展示に使用するため 八田村文化財冊子(仮称)に掲載するため ・ 世書村郷土資料館平成14年度秋期企画展「甲斐そ	金生遺跡 宮の前遺跡 大塚遺跡 石橋北屋敷遺跡 立石下遺跡	ナイフ形石器 中空土偶
14 15 16	7月30日 8月29日 9月10日	嵐山町教育委員会 株式会社 ライブアド 八田村教育委員会	条形石器の謎ー」図録に掲載するため 嵐山町博物誌 第4巻 原始・古代編 「へきなんたんトビア」常設展示に使用するため 八田村文化財冊子(仮称)に掲載するため	金生遺跡 宮の前遺跡 大塚遺跡 石橋北屋敷遺跡 立石下遺跡 中田遺跡	ナイフ形石器 中空土偶
14 15 16	7月30日 8月29日 9月10日	嵐山町教育委員会 株式会社 ライブアド 八田村教育委員会	斧形石器の謎ー」図録に掲載するため 嵐山町博物誌 第4巻 原始・古代編 「へきなんたんトピア」常設展示に使用するため 八田村文化財冊子(仮称)に掲載するため ・ 世書村郷土資料館平成14年度秋期企画展「甲斐そ	金生遺跡 宮の前遺跡 大塚遺跡 石橋北屋敷遺跡 立石下遺跡	ナイフ形石器 中空土偶 9号住居 9号住居 9号住居遺物出土状況 道路跡 出土遺物 土壙 2区空撮 土師器集合写真 2区出土土器 2区7号住居出土奈良三彩 全景 3区足跡 参道 水田 方形周溝墓 馬歯出土状況 方形周溝墓
14 15 16	7月30日 8月29日 9月10日	嵐山町教育委員会 株式会社 ライブアド 八田村教育委員会	斧形石器の謎ー」図録に掲載するため 嵐山町博物誌 第4巻 原始・古代編 「へきなんたんトピア」常設展示に使用するため 八田村文化財冊子(仮称)に掲載するため ・ 世書村郷土資料館平成14年度秋期企画展「甲斐そ	金生遺跡 宮の前遺跡 大塚遺跡 石橋北屋敷遺跡 立石下遺跡 仲田遺跡 集山北遺跡	ナイフ形石器 中空土偶
14 15 16	7月30日 8月29日 9月10日	嵐山町教育委員会 株式会社 ライブアド 八田村教育委員会	斧形石器の謎ー」図録に掲載するため 嵐山町博物誌 第4巻 原始・古代編 「へきなんたんトピア」常設展示に使用するため 八田村文化財冊子(仮称)に掲載するため ・ 世書村郷土資料館平成14年度秋期企画展「甲斐そ	金生遺跡 宮の前遺跡 大塚遺跡 石橋北屋敷遺跡 立石下遺跡 中田遺跡	ナイフ形石器 中空土偶 9号住居 9号住居 9号住居遺物出土状況 道路跡 出土遺物 土壙 2区空撮 土師器集合写真 2区出土土器 2区7号住居出土奈良三彩 全景 3区足跡 参道 水田 方形周溝墓 馬歯出土状況 方形周溝墓
14 15 16	7月30日 8月29日 9月10日	嵐山町教育委員会 株式会社 ライブアド 八田村教育委員会	斧形石器の謎ー」図録に掲載するため 嵐山町博物誌 第4巻 原始・古代編 「へきなんたんトピア」常設展示に使用するため 八田村文化財冊子(仮称)に掲載するため ・ 世書村郷土資料館平成14年度秋期企画展「甲斐そ	金生遺跡 宮の前遺跡 大塚遺跡 石橋北屋敷遺跡 立石下遺跡 仲田遺跡 集山北遺跡	ナイフ形石器 中空土偶
14 15 16	7月30日 8月29日 9月10日	嵐山町教育委員会 株式会社 ライブアド 八田村教育委員会	斧形石器の謎ー」図録に掲載するため 嵐山町博物誌 第4巻 原始・古代編 「へきなんたんトピア」常設展示に使用するため 八田村文化財冊子(仮称)に掲載するため ・ といって、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では	金生遺跡 宮の前遺跡 大塚遺跡 石橋北屋敷遺跡 立石下遺跡 仲田遺跡 集山北遺跡 百々遺跡	ナイフ形石器 中空土偶
14 15 16	7月30日 8月29日 9月10日	嵐山町教育委員会 株式会社 ライブアド 八田村教育委員会	斧形石器の謎ー」図録に掲載するため 嵐山町博物誌 第4巻 原始・古代編 「へきなんたんトピア」常設展示に使用するため 八田村文化財冊子(仮称)に掲載するため ・ といって、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では	金生遺跡 宮の前遺跡 大塚遺跡 石橋北屋敷遺跡 立石下遺跡 仲田遺跡 東山北遺跡 東山北遺跡 万力公園内	ナイフ形石器 中空土偶
14 15 16 17	7月30日 8月29日 9月10日 9月24日	嵐山町教育委員会 株式会社 ライブアド 八田村教育委員会 豊富村教育委員会 株式会社 郷土出版社	斧形石器の謎ー」図録に掲載するため 嵐山町博物誌 第4巻 原始・古代編 「へきなんたんトピア」常設展示に使用するため 八田村文化財冊子(仮称)に掲載するため で豊富の馬の文化」に展示するため 「定本 富士川 釜無川・笛吹川」に掲載のため	金生遺跡 宮の前遺跡 大塚遺跡 石橋北屋敷遺跡 立石下遺跡 中田遺跡 東山北遺跡 東山北遺跡 百々遺跡 万力公園内 壱番下堤跡	ナイフ形石器 中空土偶
14 15 16	7月30日 8月29日 9月10日	嵐山町教育委員会 株式会社 ライブアド 八田村教育委員会	斧形石器の謎ー」図録に掲載するため 嵐山町博物誌 第4巻 原始・古代編 「へきなんたんトピア」常設展示に使用するため 八田村文化財冊子(仮称)に掲載するため ・ といって、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では	金生遺跡 宮の前遺跡 大塚遺跡 石橋北屋敷遺跡 立石下遺跡 仲田遺跡 東山北遺跡 東山北遺跡 万力公園内	ナイフ形石器 中空土偶
14 15 16 17	7月30日 8月29日 9月10日 9月24日	嵐山町教育委員会 株式会社 ライブアド 八田村教育委員会 豊富村教育委員会 株式会社 郷土出版社	斧形石器の謎ー」図録に掲載するため 嵐山町博物誌 第4巻 原始・古代編 「へきなんたんトピア」常設展示に使用するため 八田村文化財冊子(仮称)に掲載するため で豊富の馬の文化」に展示するため 「定本 富士川 釜無川・笛吹川」に掲載のため	金生遺跡 宮の前遺跡 大塚遺跡 石橋北屋敷遺跡 立石下遺跡 中田遺跡 東山北遺跡 東山北遺跡 百々遺跡 万力公園内 壱番下堤跡	ナイフ形石器 中空土偶
14 15 16	7月30日 8月29日 9月10日 9月24日	嵐山町教育委員会 株式会社 ライブアド 八田村教育委員会 豊富村教育委員会 株式会社 郷土出版社 株式会社 郷土出版社	条形石器の謎ー」図録に掲載するため 嵐山町博物誌 第4巻 原始・古代編 「へきなんたんトピア」常設展示に使用するため 八田村文化財冊子(仮称)に掲載するため で豊富の馬の文化」に展示するため 「定本 富士川 釜無川・笛吹川」に掲載のため 「定本 富士川 釜無川・笛吹川」に掲載のため	金生遺跡 宮の前遺跡 大塚遺跡 石橋北屋敷遺跡 立石下遺跡 中田遺跡 東山北遺跡 東山北遺跡 百々遺跡 万力公園内 壱番下堤跡	ナイフ形石器 中空土偶

乗口	由注口	由	到 田 日 65	申請	物 件 名
番号 21	申請日 10月11日	申 請 者 玉穂町教育委員会	利 用 目 的 「第30回玉穂町文化祭」に展示するため	北河原遺跡	
-11	10/JII	XXII XXX			2号溝遺物出土状況
					桶出土状況
					1号墓壙人骨頭部漆製品出土状況
					地形写真 Pit33丸太?出土状況
					1号土壙下部遺物出土状況
					12号土壙遺物出土状況
					3号墓壙人骨出土状況
					2号墓壙人骨出土状況
					空中写真
22	10月15日	若草町教育委員会	「若草町の遺跡と文化財」に掲載するため	新居道下遺跡	遺跡風景8点 遺跡風景3点
				村前東A遺跡 二本柳遺跡(甲西バイパス)	遺跡風景10点
			·	二本柳遺跡(福寿院)	遺跡風景5点
23	10月25日	山梨県考古学協会	「山梨県考古学協会秋期大会 土器から探る縄文	酒吞場遺跡	台形土器実測図
			社会研究会資料集」に掲載するため	ンディア (日)中 FA	然10日42日時末19日1 かりな
24	10月25日	帝京大学山梨文化財研究所	帝京大学山梨文化財研究所「所報」44号に掲載す るため	酒吞場遺跡	第10号住居跡南壁出土盤状台形 土器と粘土塊出土状況
			\$7CW		第10号住居跡ピット出土盤状台
					形土器と粘土塊出土状況
25	11月6日	小野正文	山梨県考古学協会研究集会「土器から探る縄文社	原町農業高校前遺跡	顔面把手付土器
		M. B. A. H. 18 A. T.	会」の発表レジュメに掲載するため	人止事時	- 九九 /田
26	11月8日	株式会社 ヴュー企画	ビデオ「映像 考古学」(仮題)の解説冊子「遺跡 めぐりガイド」(仮題)に掲載するため	金生遺跡	中空土偶
27	12月1日	財団法人 山梨県公園公社	公気 リガイト」 (収起) に拘載するため 公園案内パンフレットに掲載のため	考古博物館	外観
٠.	18/31H	지 수 대 수 시스시스 다니 가지 수 대의 수 시스	- All All All All All All All All All Al	研修センター	外観
				銚子塚古墳	全景
28	12月12日		テレビ番組「新・諏訪の歴史」内で使用するため	金生遺跡	中空土偶
29	12月18日	株式会社 小学館	「考古資料大観 第8巻 弥生・古墳時代 木・繊維製品」に掲載するため	油田遺跡 身洗沢遺跡	竪杵 又鍬
				对 (九)八)是助	鍬
					剣形木製品
					柄
				銚子塚古墳	用途不明木製品
20	10 🗆 10 🗆	株式会社 ジャパン通信情報センター	「文化財発掘出土情報 2003年2月号に掲載するた	甲府城下町遺跡	用途不明木製品 発掘風景と出土品13点
30	12月19日	休式会性 シャハン通信情報センター	人に射光畑山上間報 2003年2月 5 に何収するに	下州 州 周 即	元海风景 C 四上間10点
31	12月20日	都留市教育委員会	都留市博物館ミュージアム都留企画展「古代への旅	中谷遺跡	12号住居跡全景
			~ふるさとの遺跡展~」に展示するため	12 117 南 米 士 小 少 中 114	注口土器出土状況
32	12月25日 1月15日	長沢宏昌 株式会社 岩波書店	田代孝氏退職記念資料集に掲載するため 「先史日本を復元する 3」「縄文のマツリと暮ら	原町農業高校前遺跡 甲ッ原遺跡	小型有孔鍔付土器 彩色土器
33	17,130	体以云红 石似盲店	しし、に掲載するため	1 / ////8/10/	漆彩文土器赤色漆
34	1月20日	徳島市教育委員会		天神遺跡	翡翠製大珠
			徳島市立考古資料館特別企画展「ヒスイに魅せられ て〜縄文から弥生へ〜」の展示図録に掲載するため		翡翠製大珠出土状況
			で 帰文が ラが土 こうのだが四級にもすべかのでの	大月遺跡	翡翠製大珠 翡翠製大珠出土状況
				金生遺跡	羽卒聚入环山工(水)(九 翡翠製大珠
				NE 1. 18 10	翡翠製大珠出土状況
				酒吞場遺跡	翡翠製大珠・原石
					翡翠製大珠出土状況
35	1月28日	長坂町教育委員会	長坂町郷土資料館に展示するため	酒吞場遺跡	遺跡近景
					彩色土器 A区調査区全景
					C区第31·32号住居跡完掘状況
					C区第41号住居跡遺物出土状況
					C区第174~179号土壙遺物出土状
					况 C区調本風暑
				横針前久保遺跡	C区調査風景 調査区近景
			-	18年1月八小思明	航空写真
					ナイフ形石器
					台形様石器
					遺物出土状況
20	2月13日	大阪城天守閣	「歴史遺産としての石造構造物の土木史的研究」内	甲府城跡	局部磨製石斧と同一母岩資料 矢穴及び刻線を残す石垣石
36	2月13日	八敗衆八寸冏	「花崗岩石割の技術の誕生とその展開」に掲載する	1 /13 /25(四)	/ (/ (/ / / / / / / / / / / / / / / / /
			ため		*
37	2月16日	國華社	「國華」1293号に掲載するため	安道寺遺跡	有孔鍔付土器
38	2月26日	株式会社 学生社	「日本全国古墳学入門」に掲載するため	銚子塚古墳	全景 復元された竪穴住居
39	2月27日	山梨県生涯学習推進センター	生涯学習推進センター発行予定「山梨の人と文化」 に掲載するため	写古傳物館 天神堂遺跡	復几された笠八江店 礫群
40	3月11日	日本テレビ放送網株式会社	「メレンゲの気持ち」内にて使用するため	一の沢遺跡	人体文土器
10	-,, ** H	The second of the National States	1		土偶
				V= V4-V4- 0 VB E4-	顔面把手
				海道前C遺跡	人面装飾付土器
		T. Control of the Con		安道寺遺跡	顏面把手
					右孔 鏢付十器
				酒吞場遺跡	有孔鍔付土器 深鉢形土器
41	3月19日	山梨市教育委員会	教材用ビデオ「高畑遺跡のすべて(仮名)」内で使 用するため		

5. 所内研究グループ

縄文研究部会

当部会では、2000年度から山梨県内の縄文土器をまとめた『山梨の縄文絵引き』を作成しているが、2002年度は2001年度の「早期末・前期」の続編として、県内で出土した諸磯a式土器を集めて前期後葉編を作成した。現在の所、山梨県内では諸磯b式の段階から遺跡の数が増加する傾向にある。諸磯a式については県内の資料が少なく、6市町村・8遺跡の資料を掲載した。今後は、資料が膨大な量になる諸磯b式以降について、どのような形で縄文絵引きを作成していくのかが課題となる。

縄文土器編年概観研究部会

当部会では、研究する日数は少なかったが、実際の縄文土器を観察したり、写真撮影をすることによって、その概観に関する勉強会を行った。特に釈迦堂遺跡(釈迦堂博物館)における遺物、西原遺跡・柳原遺跡(境川教育委員会)における遺物を中心に学習を進めた。しかし、思うように時間を確保することができなかったため、研究が進まない現状である。今後の活動について検討が必要である。

花鳥山遺跡研究部会

県史編纂事業の一環として國學院大学から借用している花鳥山遺跡発掘品の整理及び図化をおこない、考古学的な位置づけと資料化をはかることを目的としている。2001年度に引き続き2002年度も拓本、断面実測をすすめる。花鳥山遺跡資料の中でも特に問題となる諸磯b式からc式にかけての資料を中心に行った。該期は従来の研究により断絶があるとも理解されているが、本資料にはこのギャップを埋める資料が多数含まれており、中部高地での独自の展開が予想されるところでもある。資料は膨大にあり、選別とその図化をさらに継続していく必要がある。

古墳研究部会

当部会では、県内に所在する古墳についてその所在と現状を把握し、順次それらをカード化する作業を行っている。2002年度は境川村の北部地域に所在する蛇山古墳群周辺の踏査を行った。しかし、踏査については天候などに左右されることもあり計画通りに進まないのが現状で、今後の活動について検討を要する。

実験考古学研究部会

山梨では、古墳時代後期の境川村牛居沢窯跡やほぼ同時期の敷島町天狗沢瓦陶兼用窯跡が知られているが、周辺県ほどの生産の隆盛は見られない。また、奈良・平安時代に韮崎市や須玉町などで独自の須恵器が存在するが、窯跡は確認されていない。当部会では、これらの状況を踏まえて、「山梨の採取粘土により須恵器製作を行い、①山梨で須恵器生産が低調であった理由の追求、②遺跡出土遺物と実験試料との比較による生産と供給関係の解明、③須恵器の製作技術の復元」を研究テーマに設定し、研究活動に取り組んだ。2002年度の主要活動は、県内の窯跡関係資料の収集及び焼成実験用窯(灯油窯)の開窯準備にとどまった。2003年度は、須恵器製作技法及び採取粘土の再検討などを行い、本格的に焼成実験を開始し、上記の実験目的を追求していきたい。

文化財保護行政研究部会

景気低迷を反映し埋蔵文化財行政が大きく転換しつつある状況下において、当埋蔵文化財センターが抱える問題点の整理検討を行った。その中で、職員に対するアンケート調査を実施し検討を行った。アンケートは当埋蔵文化財センターの業務内容、職員の業務に対する認識、外部委託の課題、センターの将来像などを重点とした。回答からは改善点や問題点が多く指摘されたが、各担当遺跡ごとに性格が多様であることなどに起因して、職員間での仕事量や取り組み方など多様であることが改めて明らかになった。埋蔵文化財に関わる仕事は、

これまでは主に「個々の仕事を進めながらゆるやかな基準を導き出すという帰納的な処理」を行ってきており、行政の仕事として一般的な「統一的な基準を個々の仕事に適用していく演繹的な処理」をすることが難しいという大前提があることが再確認できた。しかし、現在では予算や業務の計画性と透明性さらに説明責任が求められるようになっている。今後の埋蔵文化財センターとしては、行政的な制度と埋蔵文化財行政との整合性をいかに維持するのか大きな課題となっていることを再認識した。

考古教材研究部会

2002年度当部会は行政教員 5 名、専門職員 2 名の計 7 名で活動した。2002年度は昨年度に引き続き、山梨県内の国指定および県指定史跡の教材化をテーマとして活動した。具体的には2001年度に執筆した各史跡の解説文と収集した資料を基に資料集の編集作業を進めた。10月末に「先生のための考古資料集第 6 集 — 山梨県内の国指定・県指定史跡 — 」(冊子)の刊行をみた。その後、冊子を山梨県内の小学校・中学校・高等学校や埋蔵文化財センター・考古博物館職員などに無償配布した。今後、必要に応じて各教育機関等にも配布する予定である。

6. 第15回市町村埋蔵文化財専門職員研修会

2002年度は、埋蔵文化財センター創立20周年記念事業として2002年9月29日開催された「縄文トーク2002in 山梨」を研修会として行った。当日は2部構成で、第1部が講演、第2部がパネルディスカッションとした。第1部の講演では名古屋大学名誉教授 渡辺 誠先生から「縄文土器にみる女性」、俳優 苅谷俊介さんから「縄文の生死観」と題するご講演をいただいた。第2部ではもう一人のゲストである女優の竹下景子さんを迎え、大塚所長がコーディネーターとして加わり、「祈りの造形に込められたもの」というテーマに沿って鼎談していただいた。本県の縄文文化には、人物や動物がモチーフとなった独創的で迫力のある文様が施される土器や、土偶などの祭祀的な遺物が多くみられ、学術的にはもちろん、芸術的にも高く評価され、重要文化財に指定されたものもある。これらの遺物には、海外での展覧会にも度々出品されるものがあり、本県の縄文文化は文化遺産としてアピールできるものと考えられる。このような山梨で出土した主たる遺物などをスライドで上映し、当時の人々の生活の様子や、精神世界を読みとり、講師の皆さんに語って頂いた。

今回は一般の方々を対象とした記念事業を当研修会としても行ったものであるが、その視点が郷土の歴史を 埋蔵文化財を通じて学習普及するという重要な役割を担う専門職員にも、多くの示唆を与えることのできた事業であったと思われる。また、講師の皆さんが様々な角度から述べられた指摘は、山梨の縄文文化を理解する うえで傾聴すべきものが多々あった。

7. 山梨県埋蔵文化財センター創立20周年記念事業

資料普及課では山梨県埋蔵文化財センター創立20周年記念事業として『鼎談』と『記念展示会』の二つの事業を企画実行した。

①鼎談『縄文トーク2002in山梨 ~祈りの造形に込められたもの~』

2002年9月29日(日)、山梨県立県民文化ホール小ホールに於いて、渡辺誠氏(名古屋大学名誉教授)、竹下景子氏(女優)、苅谷俊介氏(俳優)の三名を迎えて開催した。前半に渡辺誠氏および苅谷俊介氏による基調講演が行われ、後半に竹下景子氏および大塚初重県埋蔵文化財センター所長を交えて山梨県内出土の縄文土器の文様から縄文人の祈りや生活を考え、ディスカッションを行った。会場は約600名の聴衆でほぼ満席となる盛況であった。鼎談終了後には会場内で苅谷氏著作本のサイン会も実施され好評を得た。

②記念展示会『the Jomon』

2002年9月7日から10月6日までの約一ヶ月間、毎日朝8時30分から午後9時まで期間中無休で甲府市丸の内の県民情報プラザー階の展示場に於いて、山梨を代表する縄文時代中期の大遺跡である北巨摩郡長坂町に所在する酒呑場遺跡出土の縄文土器約150個体を一堂に会し展示公開した。これら酒呑場遺跡の出土品をとおして

山梨県の優れた文化遺産を県民および全国にアピールし、埋蔵文化財に対する理解を深め、保護活用の協力を得ることを目的とした。期間中県内外から大勢の見学者が訪れた。

8. 遺跡調査発表会

遺跡調査発表会は、山梨県内で当該年度に発掘調査された遺跡についてその調査内容や成果を公表する催しとして年2回のペースで開催している。開催は民間の考古学研究団体である「山梨県考古学協会」と共催で実施しており、スライド上映を交えた口頭説明および出土遺物や写真パネルのミニ展示も併設している。また、各調査担当者からの説明に加え、時代・時期・地域などの特性に応じた研究者からのコメントを追加し、参加者の理解を高める方策もとっている。本年度の発表内容等は下記のとおりである。

■2002年度上半期遺跡調査発表会

開催日時 2002年10月19日 (土曜日) 午後1時から4時10分まで

開催会場 風土記の丘研修センター講堂

発表 1 西桂町 宮の前遺跡 (発表者 山梨県埋蔵文化財センター 吉岡弘樹) 縄文時代中期後半の柄鏡形敷石住居跡や縄文時代後期初頭の配石遺構などについての報告。

発表 2 塩山市 塩山バイパス関連遺跡群(発表者 山梨県埋蔵文化財センター 石神孝子) 五反田遺跡、大木戸遺跡、影井遺跡、下西畑遺跡、西畑遺跡、保坂家屋敷墓など縄文時代前期から江 戸時代まで多岐に渡る遺跡の調査内容の報告。

発表3 甲府市 川田遺跡群山梨学院川田運動場遺跡(発表者 甲府市教育委員会 平塚洋一) 平安時代の大集落および16世紀代の石積みを伴う溝の報告。

発表4 甲府市 塩部遺跡 (発表者 甲府市教育委員会 佐々木満) 弥生時代後期末から古墳時代前期初頭の方形周溝墓、竪穴住居跡および掘立柱建物跡からなる集落跡 などについての報告。

発表 5 甲西町 宗持の里遺跡 (発表者 甲西町教育委員会 広瀬和弘) 中世の火葬墓群、井戸、集石遺構、建物群、石列群などの報告。

■2002年度下半期遺跡調査発表会

開催日時 2003年3月8日 (土曜日) 午後1時から4時40分まで

開催会場 帝京大学山梨文化財研究所 大ホール

報告 平成14年度の県内埋蔵文化財の調査と保護(発表者 山梨県教育委員会学術文化財課 山本茂樹) 平成14年度の県内における調査動向および埋蔵文化財保護の状況についての報告。

発表 1 山梨市 高畑遺跡 (発表者 帝京大学山梨文化財研究所 櫛原功一) 笛吹川河岸の低地における縄文時代中期の集落遺跡および平安時代の集落跡についての報告。

発表 2 長坂町 段道遺跡 (発表者 長坂町教育委員会 長谷川 誠) 八ヶ岳東南麓の縄文時代中期後半の竪穴住居跡群および配石遺構などの報告。

発表3 韮崎市 宿尻第二遺跡 (発表者 韮崎市教育委員会 閏間俊明) 古墳時代前期の竪穴住居跡群および掘立柱建物群などについての報告。

発表 4 甲府市 甲府城下町遺跡 (発表者 山梨県埋蔵文化財センター 森原明廣) JR甲府駅南口で調査された江戸時代の武家屋敷地の調査内容の報告。

《文献》

山梨県埋蔵文化財センター・山梨県考古学協会 2002. 10. 19 『2002年度上半期 遺跡調査発表会要旨』 山梨県埋蔵文化財センター・山梨県考古学協会 2003. 3.8 『2002年度下半期 遺跡調査発表会要旨』

9. 山梨の遺跡展2002

2002年度に、埋蔵文化財センターによって行われた発掘調査と資料普及活動の概要および市町村教育委員会によって行われた発掘調査の概要の発表の場として「山梨の遺跡展2002」を開催した。遺跡展の目的は2002年度に行われた発掘調査の成果の一部や資料普及活動の様子を、いち早く県民に紹介することである。

「山梨の遺跡展2002」は2003年3月15日(土)から4月6日(日)まで、県立考古博物館の特別展示室を会場として行った。入場は無料とした。展示の内容は①埋蔵文化財センターによって発掘された遺跡の展示、②市町村によって発掘された遺跡の展示、③パネル展示、④新聞パネル展示の4種類の展示をした。①では、大木戸遺跡(塩山市:土器・石器類)、原町農業高校前遺跡(長坂町:土器類)、宮の前遺跡(西桂町:土器類)、當代遺跡(御坂町:土器・石器類)、大ネギ遺跡(御坂町:土器類)、中沢遺跡(山梨市:土器類)、武家遺跡(山梨市:土器類)、武家遺跡(山梨市:土器類)、大ネギ遺跡(御坂町:土器類)、中沢遺跡(山梨市:土器類)、武家遺跡(山梨市:土器類)、武家遺跡(山梨市:土器類)、武家遺跡(山梨市:土器類)、東部遺跡(若草町:土器類)、甲府城下町遺跡(甲府市:陶磁器類)、鰍沢河岸跡(鰍沢町:ガラス瓶類)の10遺跡の出土資料とパネル展示を行った。さらに埋蔵銭貨出土遺跡群詳細分布調査の出土遺物展示と甲府城跡(甲府市)、藤田池遺跡(増穂町)のパネル展示を行った。②では、甲府市教育委員会の発掘によるに埋蔵・土遺跡で、土器類)の出土遺跡を各機関から借りて展示した。③では、埋蔵文化財センター資料普及課による20周年記念事業・出前授業などの様子をパネルを用い紹介した。④では、埋蔵文化財や発掘調査について新聞に掲載された記事をパネルで展示した。

これらの展示を通じて、県民の皆様に埋蔵文化財への理解、郷土山梨への歴史認識を深めていただくことができたと考えている。

10. 所内研修

2002年度の所内研修は、研究紀要17、18の執筆者が講師となり、論文の要旨を発表した。研究紀要は、考古博物館・埋蔵文化財センター職員の日頃の研究成果の一端を掲載するもので、その対象となるものは旧石器時代から近代まで広範囲に渡る。このことは、文化財主事の調査対象とするものが極めて多様であることを示しており、発掘から整理、報告書作成において常に幅広い知識を要求されることを示している。しかしながら、日常の業務や個々の専門分野の研究などで、個人レベルで数時代に渡る多様な知識を得ようとするのはなかなか困難である。この様な状況を勘案し、文化財主事が専門分野外の知識をより広範囲に得てもらう機会として、このような研修を行っている。

なお、2002年度の全体研修は、事前のアンケートからグループ研修に多くの時間を充当したいという意見が寄せられたことや、20周年記念事業の準備等の影響で、上半期は市町村埋蔵文化財専門職員研修会を含め2回、下半期は3回の計5回が行われた。

- 8月30日 甲府城内葡萄酒醸造所について -国産ワインの発祥地甲府- (講師 宮久保真紀) 県指定史跡甲府城跡の調査で検出された甲府城内葡萄酒醸造所 (明治10年創設) に伴うと考え られる遺構や遺物に加え、古写真や文献なども参考にして、その復元を試みた。
- 9月29日 市町村埋蔵文化財専門職員研修会 「縄文トーク2002in山梨」
- 10月31日 道々芽木遺跡の土馬と土馬祭祀の起源 (講師 三森鉄治) 甲府市道々芽木遺跡から出土した土馬について、他遺跡で出土した事例との比較を行い、朝鮮半 島も射程とした土馬の祭祀形態のなかでその用途を考察した。
- 11月29日 鰍沢河岸跡出土の泥面子について (講師 小林 稔) 鰍沢河岸跡の調査は1996年度から着手され、現在も調査は行われている。このうち2000年度の 調査で出土した泥面子について、その分類を行い、用途や流通経路などを他遺跡での類例との比 較を行いながら、若干の考察を試みたものである。
- 2月28日 各研究部会の成果発表

11. 寄贈・購入図書

2002年度の図書登録数は約4,000冊である。その内訳は、全国の都道府県・市町村教育委員会等から送付された発掘報告書・年報・研究紀要、博物館・資料館等の企画展・常設展示図録、その他の関係機関からの寄贈に加え、業務に関係する考古学・歴史・学術雑誌・資料普及活動用図鑑等の購入からなる。2001年度までの蔵書数は約80,500冊と報告されていることから、これに2002年度分を足すと約84,500冊となる。蔵書数の増大に従い、収納スペースが絶対的に不足している状況である。こうした現状に対処するため、2002年度は3つの書棚を増設して図書収蔵環境の改善を図ったが、書棚の設置スペース自体が既に限界に近いことから、新たな収蔵スペース・部屋の確保を含めた抜本的な検討が必要な段階と考えられる。

Ⅱ 各遺跡の発掘調査概要

1. 鰍沢河岸跡A・B

所 在 地 南巨摩郡鰍沢町白子明神地区 (鰍沢町1374-5外)

事 業 名 宅地水防災対策工事(鰍沢河岸跡A)

一般国道52号改築工事(鰍沢河岸跡B)

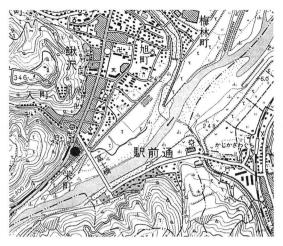
調査期間 2002年6月24日~2003年3月14日

調査面積 A:5140m² (525m²×1面、850m²×2面、

 $532.5 \,\mathrm{m}^2 \times 2 \,\mathrm{m}$ 、 $760 \,\mathrm{m}^2 \times 2 \,\mathrm{m}$ 、 $160 \,\mathrm{m}^2 \times 2 \,\mathrm{m}$)

B: $2220 \,\mathrm{m}^2$ ($1110 \,\mathrm{m}^2 \times 2$ 面)

担 当 者 A:小林 稔·村石眞澄 B:小林敏徳·一瀬一浩



鰍沢河岸跡 位置図

甲府盆地を代表する二大河川である笛吹川と釜無川の合流点から約3km下流に鰍沢河岸跡は位置する。この地は駿州街道と甲府盆地内の東西陸路交通の結節点ともなっている。「鰍沢河岸」は江戸時代に開かれた富士川舟運の船着場であり、青柳河岸・黒沢河岸とともに甲州三河岸と呼ばれた中の第一のものとして大いに発展し、今日の鰍沢町発展の基礎となっている。今回の事業では2000年から発掘調査を着手し、甲府代官所支配下の年貢米を集積した御蔵台跡・御米蔵跡、道路跡・河岸問屋街などを確認している。

道路跡・河岸問屋街南端 (A3区・A4区北半)

駿州街道(現国道52号)から御蔵台跡へ荷を運ぶ道路跡を2001年に引き続き調査した。道路幅は二間幅(3.6 m)の規模であり、道路は現在に至るまで使用され続けたが河岸の衰退により道路幅員が縮小されていることが判明した。この東側路肩は石垣が築かれ、強固に突き固められた堆積層が厚さ4mで、この中に少なくとも6層の明瞭な路面が認められた。道路東脇では江戸時代以降にもたらされた洪水細砂~シルトが3m以上の厚さで堆積しており、洪水の被害を受けるたびに路面を上へ上へと積み重ねてきた結果であることが判る。これは道路を維持するためには相当な努力が必要であったことを示すとともに、この地が相当な労力を払ってもなお価値があったこと示すものである。また明治時代の鍛冶作業跡を確認した。送風機の役割を果たす鞴に取り付けられた土製の羽口などを発見した。石垣を積む石工が自らのノミを火作りする仮設の鍛冶工房であった可能性が高い。

突き固めた建物基礎からはポートワイン型のワインボトルが6本まとまって出土した。とくに注目されるのが6本とも口の部分だけが欠損していることであり、ビンの口を意図的に欠いたものと考えられるためである。 建物基礎を突き固める作業中の地鎮祭などで土地の神などに捧げられた後に埋められた可能性が高い。

この地区での特記すべき出土遺物としては、甲州金一分判が直接伴う遺物はなくほぼ単独で出土している。これは2000年度に出土したものと同じ甲州金一分判の中でも「甲定金」と呼ばれるものである。これまでの調査では寛永通寶をはじめとして明治以降の硬貨が散在的ではあるが総計約1000点と大量に出土しており、これらは地鎮祭などで家内安全や商売繁盛を願って大地に撒かれたものであり、鰍沢河岸の大きな財力の一端を示すものと考えられる。また非常に小型の銅製印章も出土している。この小型印章は印面が1cm角弱であり、しかもツマミ部分もごく小さくまた紐を取り付けるための孔があり携帯用と考えられるものである。

河岸問屋街北西部 (A2区·X1区·X3区)

西を国道52号に、北を南川に限られる今回の事業対象地の北西隅にあたる。石垣が集中して存在しており、その多くは江戸時代から築かれはじめ後世の継ぎ足しをされて平成の時代まで家屋が建てられていたものである。つまりひとつの石垣であっても、下部と上部が築かれた年代が異なるわけであり、発掘調査ではこの点に多くの注意を払った。こうした石垣を取り除いたところ、この下から面が向きあった2列の埋没石垣をさらに検出した。これは敷地の境をなすものであり、隣家と別個に石垣を積んだ結果として相接したものであると考えられる。これを裏付けるものとして次のような話が地元で語られている。ここは洪水常習地帯であり、家の

改築などに際しては石垣を築き盛土を行い敷地を段々と高くしてきた。周囲の敷地が高くなれば、洪水のときには自分の家だけが浸水することになってしまうために、隣家と競争のようにして石垣を積んできたという。しかもこの埋没石垣は、明治時代から平成の時代まで継続してきた石垣と方向がほぼ90度異なっている。この埋没石垣が示す地割りは、鰍沢町町誌に掲載されている明治9年の地籍図に見える現在に至る地割とは一致せず、江戸時代末の海野家絵図の地割と一致するものである。江戸時代の地割は南川に面した間口の狭い短冊状のものであり、江戸時代末から明治時代初めに、この付近の街並みの方向が大きく転換したことを示している。この段階で鰍沢河岸のまちづくりの計画が大きく改変されたことが推定される。またこの埋没石垣は現在の地表面から少なくとも3m以上埋没している。これは現在の南川の川床面よりもかなり低いものであり、江戸時代末には河岸間屋街の地割だけでなく地形面から見てもその様相が現在と大きく異なっていることが窺える。

この江戸時代の地割の北西隅からは扁平な礎石上に横たわる炭化した土台材を検出した。土台材の礎石中央部に当たる部分では、柱材が立っていたものと考えられる垂直のほぞ孔(13×4.8cm)があり、家屋が建っていたときの原位置を保っていると考えられる。周囲には焼土粒・炭化粒がおびただしく散布しており、火災直後に片づけを完全に行わないままに埋められたものと考えられる。家具もしくは建具に使われていたものと思われる小型の角釘なども出土している。文政4年の鰍沢河岸大火のときのものである可能性が高い。

河岸問屋街北東部 (X2区)

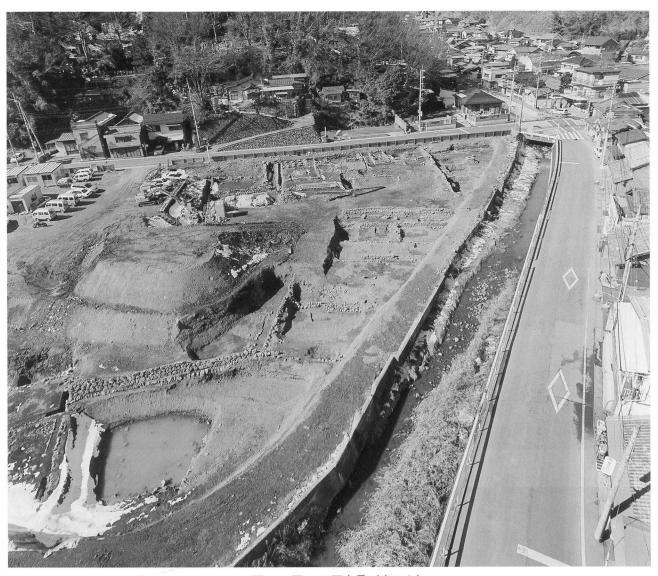
本事業の対象地の最も北東に位置し、調査区北東辺に沿って南川が流れる。南川はかつて現在の位置よりも 東側を流れていたが、大正11年に改修され現在の流路となっている。

文政4年(1821)の鰍沢河岸大火の痕跡と考えられる焼土・炭化物からなる層をこの調査区の広い範囲から検出している。大量の焼土・炭化物が硬化した生活面を覆うように広い範囲で堆積し、文献からもみえるように、その後の河岸存続を脅すような大きな火災であったことが想定される。いくつかの建物の外側では繊維質の炭化物がまとまった形で検出され、火災の折に屋根材が焼け落ちたのではないかと思われる。しかし、家屋の柱や梁などに用いられたであろう木材が炭化したものは確認できず、それらは運び出され何らかの形で再利用されていたと考えられる。また、南端部分では径約2m深さ約50cmの不整形の穴が5基確認され、その内部からは火災後の処理で集められたと思われる焼土や細かな炭化物を検出している。

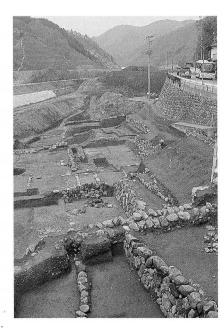
石垣は幕末に積まれたものや、明治期に積まれごく近年まで使用されていたものを確認している。それらは 駿州街道(現国道52号)に面した大店に用いられる石垣に比べ、石垣を構成する個々の石は小ぶりで加工度の 低いものが使用されている。今回調査を行った地区においても街道に近い地点の石垣は、個々の石が大ぶりで 積み足しが数回行われ長期間に渡って使用されてきたものが認められるが、他の地点では1mを越えるような高 さの石垣はごくわずかで、洪水の度に積み足しを繰り返して高くしていった様子は認められない。河岸周辺全 域に言えることだが、富士川に近く、街道からは一段下がったこのような場所では洪水の度に整地を繰り返し、 石列を並べかえ、建物を建てていたと考えられる。検出された石垣や石列は海野公機氏所蔵の絵図にみえる宅 地の区画に相当すると思われるものがあり、発掘成果と絵図を照合することによって鰍沢河岸が最も繁栄して いた幕末から明治期の様子を窺い知ることが出来る。その他石垣以外には南東部分で井戸跡や、中央部分で現 在の富士川河川敷に広がっていた白子新屋敷地区へ続く幅約1.6mの道跡なども検出している。

出土遺物は陶磁器・土器類を中心に日用生活雑器が多くみられた。また、薬ビン・インクビン・目薬ビンなど多数のガラス製品、寛永通宝を主とする銭貨約130点、泥めんこ7点が出土している。また、文政4年の大火層より下層には粗砂からなる洪水砂が約1.5mの厚さで堆積するが、その下から石列を伴う生活面が検出され、18世紀の瀬戸美濃系・唐津系などの陶器・碗の完形品が数点出土している。

これまで行われてきた鰍沢河岸跡の調査で出土している甲州金や二朱銀・その他の陶磁器類や泥めんこなどの出土状況からすると、河岸を中心に広がっていた問屋街であっても、街道沿いには立派な石垣をもった大店が並び、街道から路地を入り一段下がるこのような土地では洪水と共に暮らした庶民の生活の匂いを強く感じる。河岸の発展とともに河岸周辺には旅館や商店が軒を連ね華やかな顔を見せていた一方で、今回調査を行った地区のように大通りから離れた場所では、それを支えとして生活していた人々の暮らしがあったのではないだろうか。



A2区・X1区・X3区全景(東から)



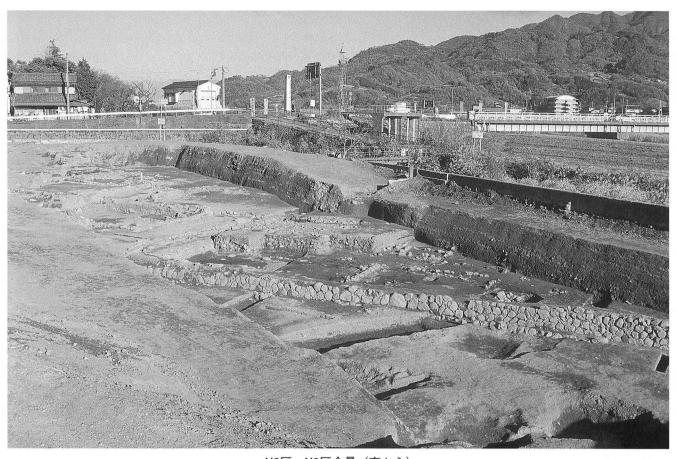
A3区・A4区北半2面全景



X1区 2 面全景

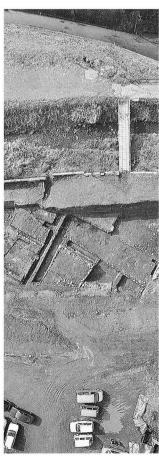


A2区 2 面焼失建物跡

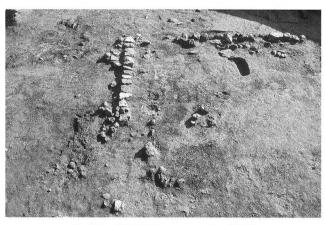


X2区・X3区全景(南から)





石垣・石列検出状況(左第1面・右第2面)



焼土面 (鰍沢河岸大火) 検出状況



陶器碗(瀬戸美濃系・唐津系)出土状況

2. 原町農業高校前遺跡

所 在 地 北巨摩郡長坂町渋沢1007ほか(北杜高校地内)

事業名 ①北杜高校内弓道場建設

②北杜高校内投球練習場建設

③既設グラウンド整備事業に伴う発掘調査

調査期間 ① 試掘調査 2002年4月19日

本格的調查 2002年6月2日~7月19日

② 試掘調査

2002年6月17日

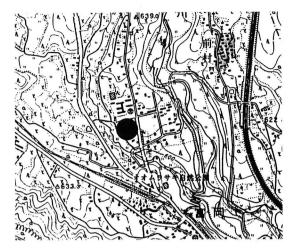
本格的調査 2002年7月11日~8月2日

③ 立会調査 2002年8月19日

本格的調查 2002年8月27日~10月1日

調査面積 ①約140㎡②約300㎡③約1,800㎡

担 当 者 保坂康夫・田口明子・正木季洋



原町農業高校前遺跡 位置図

原町農業高校前遺跡は長坂町渋沢地内、八ヶ岳南麓七里岩台地上にあって東西を鳩川・宮川の流れる谷に挟 まれた小尾根先端、標高約617~620mの地点に位置する。遺跡は2000年度から本格的な調査が行われており、 2001年度の発掘調査においては縄文時代中期の住居跡が100軒以上確認され、当該期の八ヶ岳東南麓地域の拠点 的な集落の一つと考えられる。2002年度の調査区は2001年度調査区の西側に隣接する既設グラウンド内にあり、 弓道場地点・投球練習場地点・グラウンド整備地点の3つの地点からなる。

既設グラウンド内の北西部に弓道場建設が予定され、4月19日に的場・射場の2カ所の部分について埋蔵文 化財の有無の確認のための試掘調査を行った。その結果、射場部分より縄文時代中期〜後期の遺物を包含する 遺構を確認したことにより本格的調査を行うこととなった。

調査の結果、縄文時代中期・後期の土坑約60基、平安時代の竪穴住居跡1軒、土坑2基、中・近世の溝状遺構 4条、土坑3基、礎石群、畑跡が検出された。調査区は台地の平坦面から斜面への変化点になっており、調査区 北東部の平坦面から南西に向かって斜面が形成されている。溝状遺構はこの変化点に沿って展開しており、斜 面部に確認された畑跡を区切るためのものと考えられる。溝状遺構からは中・近世のものと思われる土器が出 土していることから、中近世に属する遺構と考えられる。

平安時代の住居跡は長辺3.5m、短辺3mのほぼ方形で東側に竈を持つ。竈周辺には貼床と考えられる硬化し た厚さ約2cmの層を確認した。主な出土遺物としては土師器の坏や甕などが整理箱で2箱出土している。

縄文時代後期の土坑は主に調査区南西側の斜面部において確認され、投球練習場・グラウンド整備地点や 2001年度調査区において比較的平坦な面に検出された縄文時代中期の遺構とは立地の面で異なった様相を見せ ている。

【投球練習場地点】

調査区はグラウンドの東側、2001年度調査区の西隣に位置する。弓道場地点の発掘調査期間中、投球練習場 建設に伴う埋蔵文化財の試掘調査を行い、縄文時代中期の遺物が多数出土したことから弓道場地点に続き本格 的調査を行った。

調査の結果、縄文時代中期の竪穴住居跡2軒、土坑6基、時期不明土坑10基が検出された。竪穴住居跡は調査 区の東壁において検出された。縄文時代中期の遺物包含層中に掘り込まれており、平面プランは確認できなか ったが、遺物の出土状況・土層断面観察の結果から住居跡と認定した。炉跡は調査区外に存在すると考えられ る。

遺物は主に縄文時代中期後半の土器・石器が出土し、調査区東側の遺物包含層が厚く堆積する部分からは、

1個体の土器の半分程がまとまって出土している。

【グラウンド整備地点】

調査区は既設グラウンドの東辺と南辺に沿って、 $7\sim15$ mの幅で展開している。急な斜面になっている南西部以外は比較的平坦な地形となる。調査に先だって、既設グラウンド整備工事に伴う立ち会い調査が行われ、表土下約10cmの深さにおいて縄文時代の土坑が約70基、平安時代の住居跡が1軒確認されたことから本格的調査が行われた。

調査の結果、立ち会い調査時より遺構数が増え、縄文時代中期と思われる住居跡2軒、土坑108基、平安時代 竪穴住居跡1軒、時期不明畝状遺構3条を確認した。

縄文時代の住居跡は覆土がグラウンド建設時に削平されていたが、炉跡が確認されたことや、柱穴配置から住居跡と確認した。住居西側には縄文時代中期後半の曽利式土器が埋設されていたが、住居跡との関係は不明である。土坑は108基確認された。土坑内には配石を持つものが多くみられ、墓壙群の可能性が高い。

ほとんどの遺構は平坦面で確認されたが、南西部の斜面部において土坑 7 基の他に、直径約2.8m深さ1.2mの円形の縄文時代の遺構を1基確認した。この遺構は約4分の1が工事により掘削されるため、遺構の半分を調査対象とした。当初、直径が2.8mに及ぶことや遺構のほぼ中央部、深さ20cmの地点において焼土が確認されたことから住居跡と認識していたが、底面が焼土の深さよりさらに下にまで及ぶことから、住居跡以外の性格を持つ可能性が考えられる。

平安時代住居跡は工事による掘削が及ばないことから掘り下げを行わず、平面形の記録を行い、住居跡を切る暗渠攪乱を掘り下げ、断面観察を行なった。

グラウンド整備地点において確認された遺構のうち、 工事掘削レベルより低く掘削が及ばない遺構(平安時代 住居跡1軒、縄文時代大型遺構1基、土坑28基)につい ては掘り下げは行わず、平面形を確認し、実測による記 録作業を行った。また、特に縄文時代大型遺構、平安時 代住居跡についてはその後の工事などにより破壊される おそれがあるため、透水性のシートをかけ、遺構の保護 を行った。

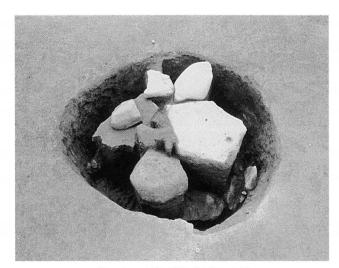
また、グラウンド整備地点発掘調査期間中の9月9日・18日・19日・26日に、同グラウンド内において電気配管・施設工事に伴う立ち会い調査を行い縄文時代の炉跡・埋設土器を確認し、直ちに調査を行った。



投球練習場地点遺物出土状況



弓道場地点完掘状況(北から)



グラウンド整備地点配石土坑

3. 大木戸遺跡

所 在 地 塩山市下於曽238-3ほか

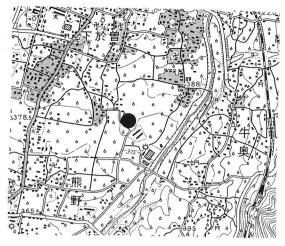
事業名 国道411号(塩山東バイパス)建設工事

調査期間 2002年5月9日~7月17日

調査面積 150 m²

担 当 者 小林孝子,小林弘典

甲府盆地の東に軒を連ねる大菩薩嶺は、塩山市を南流する重川の水源になっている。大木戸遺跡はこの重川の右岸に連続する小山状の高台、標高382m付近に所在する。すでに98・99(平成10・11)年度の2カ年にわたって発掘調査が実施されてお



大木戸遺跡 位置図

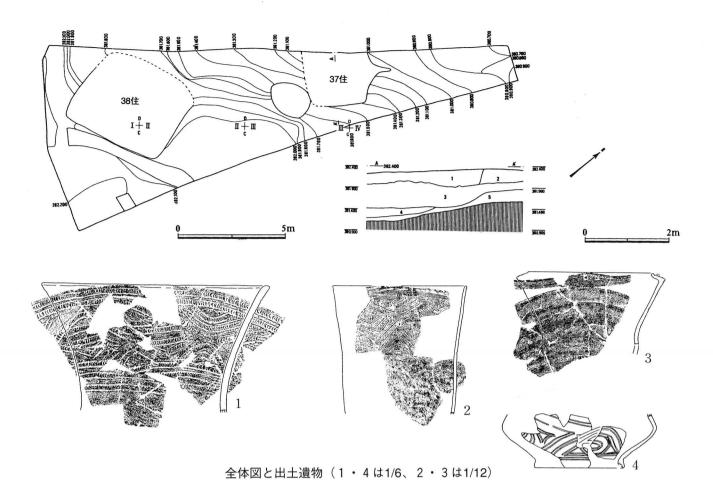
り、縄文時代前期・中期及び平安時代の集落跡が確認されている。とくに98年度の調査区では、東西に長い台地上に展開する縄文時代前期を中心とする集落跡が検出されている。本年度の調査区は、この集落跡を乗せる台地の北側にあって、谷状の落ち込みを呈しており、集落の土器捨て場になっていたものと思われる。

発掘調査の結果、古墳時代前期末の住居跡 1 軒、平安時代の住居跡 1 軒、そして縄文時代前期諸磯 a 式期から中期後葉曽利式期まで土器捨て場として利用された谷の存在が明らかになった。

縄文時代前期から中期の谷は、集落跡をのせる台地から北側へ向かって緩やかに傾斜しており、最も深いところでは標高381m前後を測る。谷の最も下層からは縄文時代前期諸磯a式期及びb式期の古相を呈する土器片が出土した。出土遺物全体から見ると、その数は多いとはいえない。またその上層からは、諸磯b式期新相の土器・石器が多量に出土した。これらは南側に位置する集落跡とほぼ同時期のものであり、居住区と土器捨て場のセットが確認されたことになる。また調査区中央の傾斜変換点付近では土坑状の落ち込みが認められ、そこを中心に浅鉢片が多数廃棄されていた。数は非常に多く種類に富んでいるのだが、接合関係は希薄で全体の様相が窺えるものは数少ない。さらにそれより上層では縄文時代中期中葉及び後葉の土器・石器等が出土した。特に後葉曽利式期の遺物は、99年度の調査とあわせて数多く検出されているものの、周辺では住居跡の存在は確認されておらず、付近に当該時期の集落跡の存在が示唆されるものである。

古墳時代前期末の住居跡は台地縁辺部で1軒が確認された。方形を呈するが、北側壁は失われていた。床面付近からは、器壁にケズリを施すS字状口縁台付甕や壺、脚部がやや柱状を呈する高杯などが出土した。当該時期の遺構は98年度の調査区で溝1条が確認されているのみであり、この住居跡がどういった性格のものであるのかは現在のところ不明であるが、本遺跡の北東に位置する下西畑遺跡の方形周溝墓群と同時期であり、その関係が注目されるところである。

平安時代の住居跡は谷部の最上層で確認された。この遺構の検出により、平安時代までには谷が埋没していたことを知ることができた。住居跡は東側半分のみが検出されたにすぎないが、北側壁面にカマドが設置されていた。10世紀後半に位置づけられるもので、大木戸遺跡の集落跡の北限であると推測される。またD—Vグリッドからは同時期の土器とともに刀装具が出土した。近接する影井遺跡では、12世紀代に位置づけられる住居跡から鉄製の鈴が出土していることと考え併せて、平安時代には本遺跡周辺がこの地域の要所であったと推測される。





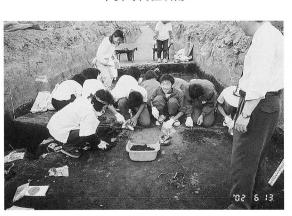
遺跡全景



平安時代住居跡



作 業 風 景



体 験 発 掘

4. 藤田池遺跡

所 在 地 南巨摩郡增穗町字青柳町1846外

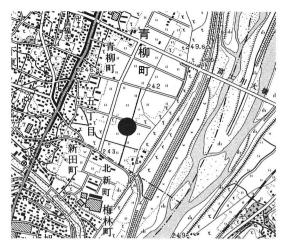
事業名 一般国道52号(甲西道路)改築工事

調査期間 2002年7月25日~10月4日

調查面積 1.200 m²

担 当 者 出月洋文·窪田昌彦

本遺跡は、甲府盆地の南西部、釜無川と笛吹川が合流し富士川となる付近で、盆地内でももっとも標高の低い沖積地上に立地している。この地域は、江戸時代には富士川舟運における甲州三河岸の一つである「青柳河岸」や「青柳の渡し場」があり、交易の要所として栄えてきた地域である。また、古くから駿信



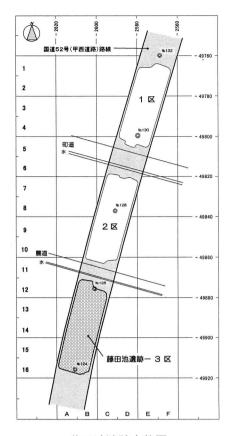
藤田池遺跡 位置図

往還の通る地域でもあり、陸上・水上交通の両方を兼ね備えた山梨県内では非常に交通の便のよい土地であったと考えられる。今回の発掘調査は、ここを通過する一般国道52号線(甲西道路)の道路建設工事に先立ち、路線内の一連の埋蔵文化財の記録保存事業の一環として実施されたものである。1996年2月に山梨県埋蔵文化財センターによって実施された路線内試掘調査により主に近世の水田跡が発見され、藤田池遺跡とその北側500mには町屋口遺跡の存在が確認された。藤田池遺跡は、すでに1998年に第1次調査が行われ、全3区のうち1・2区については、調査を完了している。2002年度の調査は、用地問題のため残されていた3区について第二次調査として約2ヶ月間の調査期間で実施したものである。

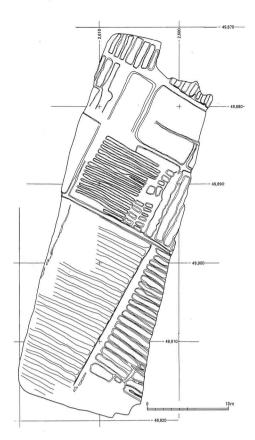
発見された遺構は、7つの水田区画、5つの畠区画、水路跡1、土坑2、部材列1が確認されている。水田区画は、江戸~明治期にかけて耕作されていた水田跡と考えられる。水田各区画には、それに伴って畦畔、足跡と稲株の痕跡、洪水の跡も確認されており、洪水と闘いながら土地の開発、生産を続けた人々の営みが見て取れる発見であった。西側の水田区画では、より低い位置の水田に水を流すための通水施設が2箇所、確認されている。水田区画にに混在して畠区画が存在している。この畠区画からは、明治以降の遺物はほとんど見られないので、水田と同様に近世後半のものであると考えられる。畠跡の遺構は、既に県内でもいくつかの調査事例があり、今回の調査でも特記するような新しい内容はないが、藤田池遺跡のような甲府盆地の最低位の土地(標高242mほど)で、地下水位がかなり高い場所であるため、水田の存在は予想していたが、畠の存在は予見していなかった。そのため、水田区画と入り交じって畠跡が確認されたことは、江戸時代から明治にかけての増穂町青柳周辺の農村景観を考える上で重要な情報であると考えられる。部材列は、B14からB15グリッドにかけて確認され、約10mの長さにほぼ直線に、桶を解体した長さ78cm前後の板材や長い丸太杭を並べている。部分的に杭を打ち、補強していることが注目されたこの部材列は、第1次調査で発見された2区の部材列と同じく、耕作段階の区分けの目印として設置されたものと見られる。

遺構の下位面には、二つほど特徴的な発見があった。まず、木の葉が土壌の中に入り込んでいるものが確認されている。これは、村明細帳などに記載されている刈り敷きに相当するものではないかと考えられた。山の草やそだなどを刈り取ってきて、肥やしとして田や畠に敷き込むものである。もう一つは、下位面を切り込んで見られる何条もの掘り込みの存在がある。これは、藤田池遺跡2区においても確認されたものである。余った地下水を抜くため、また、粘土を利用するために切り取ったなどの推定をしているが、それ以上のことは現在のところは不明である。

発見された遺物は、陶磁器類、土師質土器、漆塗り木製品、銭貨、自然遺体(種子等)などがある。3区は、1・2区に比較して遺物量が少ない。その上、陶磁器類、土師質土器は小破片が多く、図化できるものは少なかった。寛永通寶は、部材列を覆う土の中から出土しており、貴重であったはずの銭貨を耕作地に落とすわけもなく、田の神・水の神に供えたものと想定するのが妥当であると考えている。江戸時代の農村社会にも銭貨を媒介とした経済活動が浸透していることが伺える資料といえる。漆塗りの木製品は、重箱もしくは折式のようなものの一部と考えられるものである。



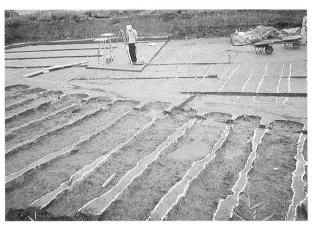
藤田池遺跡全体図



藤田池遺跡3区



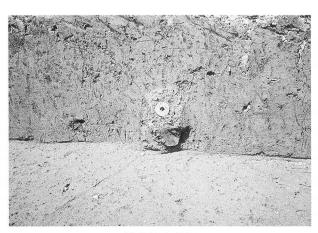
水田区画に残された足跡の状況



畠跡検出状況



通水施設検出状況



銭貨検出状況

5. 宮の前遺跡

所 在 地 南都留郡西桂町下暮地720-1

事 業 名 桂川流域下水道西桂町下暮地発進基地建設

調査期間 2002年5月10日~6月17日

調査面積 506 m²

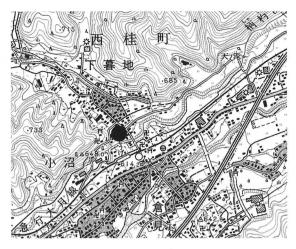
担 当 者 斉藤伸·吉岡弘樹

宮の前遺跡は西桂町下暮地地内に所在する。遺跡は御坂山塊に連なる三ツ峠山から南方に伸展する尾根の谷部分を桂川に流下する欄干川により形成された左岸段丘上に位置する。当地は標高約615mを測り、東方に競馬山、西方は城山の尾根の先端部、そして、南方に富士山を望むことが出来る比較的温暖な環境にある。過去に1987年(昭和62年)と2001年(平成13年)の2回、西桂町教育委員会により発掘調査が実施されており、中でも前者の調査においては住居跡内より最大器高21.5cmを測る釣手土器が完形で出土し注目を集めた。

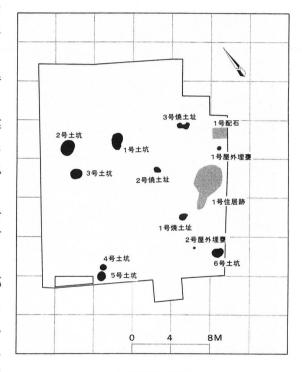
今回の調査は桂川流域下水道下暮地発信基地建設に伴う建物部分の506㎡分について実施されたものである。なお、2001年に西桂町教育委員会によって調査された箇所の東側隣接地であることを付け加えておく。

20日間の調査の結果、縄文時代中期後半の柄鏡型敷石住居跡1軒・土坑6基・埋設土器2基などのほか後期初頭の配石遺構1基が検出された。

柄鏡型敷石住居跡は調査区の東側より検出された。居住部の約半分は何らかの原因で削平された模様で確認できなかった。居住部の直径は推定約3.5m、入り口部長径約1.2mを測る。炉は検出されず、これは住居廃絶時に破壊されたものと考えられよう。構築時期は出土土器より縄文時代中期後半代に当たる曽利IV~V式期が比定される。



宮の前遺跡 位置図



遺構配置状況

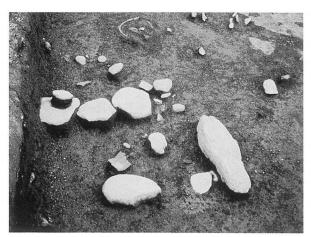
土坑については調査区中央付近に直径約1.2m程の楕円あるいは円形を呈する一群が認められた。現時点ではその用途等について明確にし得ないが、墓坑としての使用の可能性も推測できる。時期は縄文時代中期後半としておきたい。

配石遺構は調査区東側隅部より一部が確認された。現況での大きさは1×2mので人頭大の扁平な川原石を使用しコの字状を呈する形態を形成させている。しかし、本体の大部分は調査区外にあると推測されているため、その全容は掴むことは出来なかった。構築された時期は縄文時代後期初頭、称名寺式期の古段階と考えられる。

今回の発掘調査では506㎡とかなり限定された範囲にも関わらず縄文時代中期後半代を中心とする集落跡の一部を垣間見ることが出来た。これまで実施された宮の前遺跡の調査結果に今回の成果を加えることによって、縄文時代中期後半から後・晩期に向かって盛行する特色を持つ桂川流域の状況がより色濃いものとなるであろう。



遺跡より富士山を望む



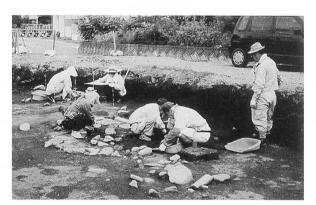
配石遺構検出状況



柄鏡型敷石住居跡検出状況



土坑検出状況



調査風景



完掘状況

6. 中沢遺跡・武家遺跡

所 在 地 山梨市落合224 (中沢遺跡) 山梨市上岩下316外(武家遺跡)

事業名 西関東道路建設事業

調査期間 2002年9月2日~12月2日

対象面積 1.000 m²

担 当 者 長沢宏昌・浅川一郎

中沢遺跡と武家遺跡は笛吹川扇状地の西縁に位置する。扇状 地面は緩やかに南西方向に傾斜している。中沢遺跡の標高は約 306m、武家遺跡の標高は約301mである。両遺跡の北西には笛



中沢遺跡・武家遺跡 位置図

吹川の旧流路である平等川が南西流しており、その右岸には山梨県北部の山地が迫っている。両遺跡周辺の現 在の土地利用は果樹園が中心であるが、かつては水田地帯であった。

以下に両遺跡の調査結果の概要を記す。

〈中沢遺跡〉

中沢遺跡では地表下40cm前後において遺構が確認された。地山は暗灰色~褐色の砂質土からなり、所々に10 ~30cm前後の礫が点在する。調査区最東部では砂質土を欠き表土下に角礫層が堆積している。

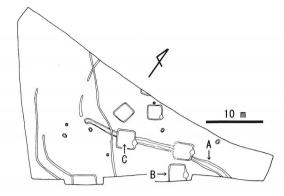
検出された遺構は、古墳時代後期の溝1条、時代不詳の溝5条、奈良時代末~平安時代初頭の住居跡7軒、 土坑7基であった。古墳時代後期の溝からは台付甕の破片等が自然礫とともに出土した。奈良時代末~平安時 代初頭の住居跡からは多数の土器片が出土した。この時期の住居跡は山梨市では初めての確認であるとともに 県内でも確認例が少なく、貴重な資料となりうる。各住居跡からは、土師器、須恵器、砥石などが出土した。 これらは奈良時代~平安時代にかけての甲府盆地北東部における土器変遷を知る上で重要な資料となる。土坑 は2基から平安時代の土器片が出土したが、掘立柱建物跡などは確認できなかった。時代不詳の溝からは遺物 は出土せず、比較的新しい時代のものと思われる。

〈武家遺跡〉

武家遺跡では道路下を調査する都合上、南北に2分して調査を行った。また、湧水を防ぐため、調査に先立 ち2.5mの矢板を調査区の周囲に打ち込んだ。遺構は地表下40~70cm前後おいて確認された。地山は主に暗灰色 ~灰色の砂質土である。調査区の西側3分の1は比高数10cmの小崖を境して低くなる。この区域は砂質土が薄 く遺物は点在したものの精査の過程で下位の砂礫層が現れ、遺構は認められなかった。

検出された遺構は弥生時代後期の住居跡1軒、溝4条、方形周溝墓2基、土坑2基、竪穴1基、時代不詳の 溝2条である。住居跡は長辺5m余と大型の長方形で、中央北寄りに粘土で枕石状の盛り上がりを有する炉が 検出された。炉の内部にも粘土が敷かれており、その上部に焼土が飛散していた。また、炉と同質の粘土塊が 主軸上の入り口部分に認められた。本来この部分には梯子受けのピットが存在するはずであるが、このような 粘土塊の存在は他に例を見ない。2基の方形周溝墓は1辺が10m前後であり、周溝から台付甕等が出土してい る。方形周溝墓に先行する溝からは、焼土(焼砂)と生焼け状態の木材(製品かどうかは不明)、炭の集中区が 認められた。明らかに溝内で焼成行為があったことを物語るものであり、何らかの祭祀が行われたものと推定 される。時期不明の溝の1条からは漆器片が出土している。竪穴とした遺構は一部しか調査されておらずその 性格は不明であるが、赤彩の弥生土器、木片、磨製石包丁の未製品など重要と思われる遺物が多数出土した。 特に、確実に弥生時代に遡る磨製石包丁は県内では初めての確認であり、貴重な資料といえる。

〈中沢遺跡〉



中沢遺跡全体図



A 1号溝遺物出土状況

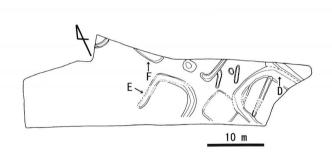


B 2号住居跡集石出土状況



C 4号住居跡遺物出土状況

〈武家遺跡〉



武家遺跡平面図



D 1号方形周溝墓遺物出土状況



E 2号方形周溝墓完掘状況



F 1号竪穴遺物出土状況

7. 曽代遺跡・大ネギ遺跡

所 在 地 東八代郡御坂町成田字當代1585他 同 大ネギ1520他

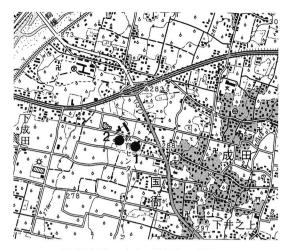
事業名 山梨県立博物館(仮称)建設事業

調査期間 2002年8月5日~8月27日

調査面積 當代遺跡250㎡・大ネギ遺跡550㎡

担 当 者 長沢宏昌・大柴鉄哉・浅川一郎・田口明子

當代遺跡、大ネギ遺跡の所在地御坂町は、甲府盆地の東部、 笛吹川の左岸で黒岳、御坂山など御坂山塊の西麓に位置する。 御坂山より斜面を北西に流れる金川の流域に沿ってなだらかな 傾斜の扇状地が形成されており、本遺跡はその先端に位置する。 標高は當代遺跡が284m、大ネギ遺跡が282mである。



當代遺跡・大ネギ遺跡 位置図 (1・當代 2・大ネギ)

本遺跡のある扇状地は甲府盆地の陥没によって成立した断層崖下に、金川の運搬による土砂の堆積によって 形成されたものである。この堆積層はきわめて厚く、そのため表流水は少ないが、地下伏流水はたいへん豊富 であった。しかしこの地下伏流水は、最近の開発により減少している。

本遺跡の発掘調査は、山梨県立博物館(仮称)建設工事に先だって2002年 5月13日より、工事着工が予定されている周辺部全域にわたって試掘調査を実施した。試掘は $1 \,\mathrm{m} \times 20 \,\mathrm{m}$ のトレンチを約 $5 \,\mathrm{m}$ 間隔で任意に設定し掘り下げを行った。総面積約63,000㎡を調査対象とし、131本のトレンチを入れて調査した。なお、この時点で用地未買収であった部分についても段階的に試掘を行い、2003年 1月14日に最後の試掘を実施し、最終的にトレンチ数は141本となった。

本遺跡周辺には地耕免遺跡をはじめとして、縄文時代から平安時代かけての遺跡が濃密に存在するので、試掘の段階から大変期待がもたれた。

調査の結果、當代遺跡からは縄文時代から平安時代までの遺物が整理箱で2箱出土した。遺構は竪穴住居跡が1軒検出された。本遺跡の遺物で特筆されるものは、竪穴住居の埋甕炉に使用された十三菩提式土器と石鏃、石斧、石皿、敲き石、台石、黒曜石の剥片などである。特に敲き石は、台石とともに3点出土しているが、使用状況が異なり使用の段階が理解できる。

また大ネギ遺跡からは、東西に溝状遺構1条が検出された。溝中より坏、高坏、高台付坏、壺、皿、高台付

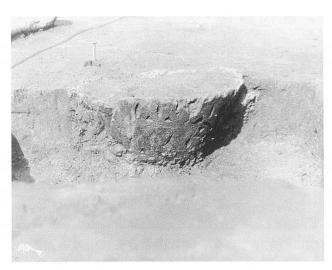
皿、甕、羽釜などの破片が積み重なるように 出土している。また、土錘8点(完形6点) が出土した。遺物は整理箱5箱である。この 溝状遺構は、西へ数m延びていると予想され るが東限は調査区東端であることが確認され た。



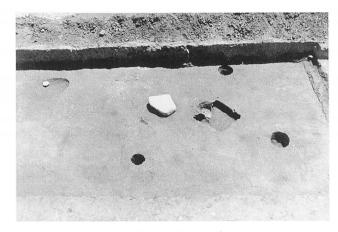
大ネギ遺跡・作業風景



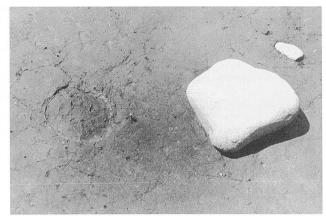
當代遺跡遺物出土状況



當代遺跡十三菩提式土器出土状況



當代遺跡(南から)



當代遺跡磨石・十三菩提式土器など遺物出土状況



大ネギ遺跡溝遺物集中区遺物出土状況



大ネギ遺跡土錘など遺物出土状況

8. 埋蔵銭貨出土遺跡群詳細分布調査

事業名 埋蔵銭貨出土遺跡群詳細分布調査

調査期間 2002年4月1日~2003年3月31日

調査区域 県内全域

担 当 者 三森鉄治·網倉邦生

埋蔵銭貨出土遺跡群詳細分布調査は国庫補助による3年計画の学術調査であり、2002年度はその2年目に当たる。2001年度までの調査によって県内全域の主な銭貨出土地が判明し、また聞き取り調査・文献調査等によって出土地点や出土状況等の詳細な情報が収集された。こうした成果を踏まえて、2002年度は未集計および再集計を要する資料を保管者より借用し、整理作業を実施する一方で、埋蔵銭貨出土地の地権者と協議し、了解が得られた出土地について発掘調査を行った。

整理作業については、未集計の大月市駒橋・勝沼町上岩崎・境川村石橋に加え、再集計を要する富士吉田市殿ノ入・塩山市千野鳥居原・一宮町竹原田等の出土資料を中心に実施した。このうち大月市駒橋出土の資料からは、島銭が1枚検出された。県内で島銭が発見されたのは初めてであり、銭種的には全国的にも2例目に当たる。また、甲州金と共伴して出土した勝沼町上岩崎の資料の分類・集計作業が完了したことで、これまで不明な点が多い甲州金の起源を探る上でも重要なデータになると考えられる。残存する銭貨の総数は2639枚、最新銭は宣徳通寶(1433年初鋳)である。

埋蔵銭貨出土地の発掘調査は、南アルプス市(旧白根町)小六科・大月市駒橋・高根町村山西割の3ヶ所にわたって実施した。南アルプス市小六科では、出土地が現在柿畑となっていることから、柿に影響のない場所4ヶ所にトレンチを設定して発掘調査を行った。その結果、地下約50cmの礫集中区から江戸時代中期の磁器片が数点検出されたが、中世に遡る遺物・遺構は確認されなかった。

大月市駒橋では、出土地点附近を発掘したところ、銭貨埋蔵遺構と考えられる約30cm四方の土坑が確認された。

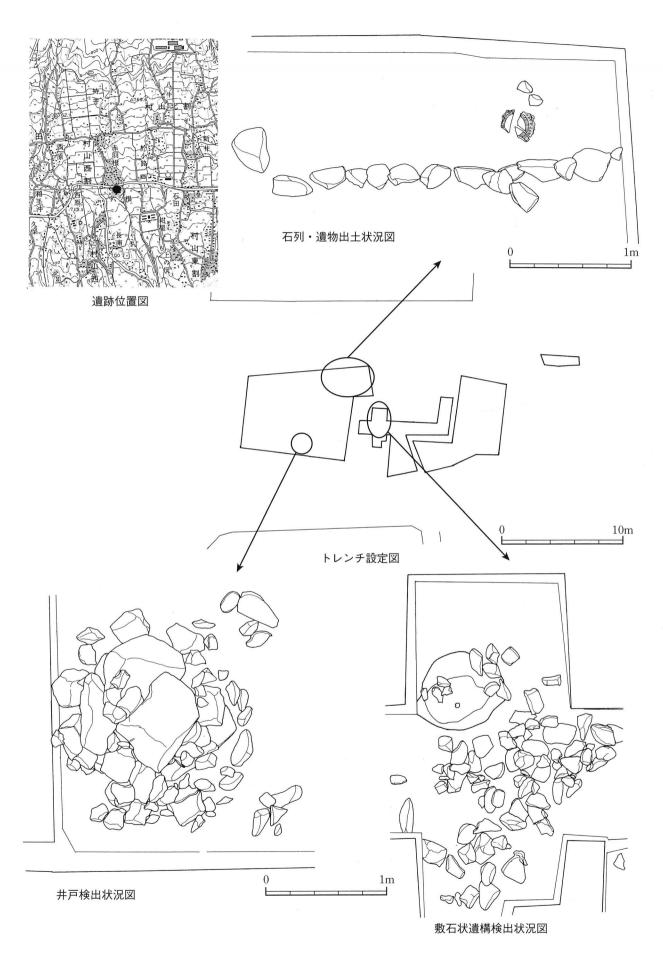
高根町村山西割では、年末年始を挟んで計16日間の発掘調査を実施した。その結果、井戸・敷石状遺構などを伴う江戸時代の屋敷跡が検出され、陶磁器・石臼等が出土したが、中世に対応する遺構面の存在は確認できなかった。



大月市延命寺遺跡: 銭貨出土地点完掘状況



高根町権現遺跡: 青磁出土状況



高根町: 権現遺跡調査区全体図

9. 寺部村附第9・中西第3遺跡

所 在 地 南アルプス市 (旧若草町) 寺部地内

事業名 新山梨環状道路建設

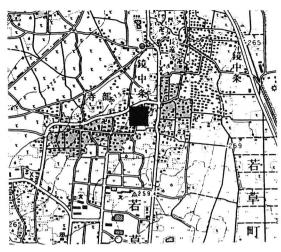
調査期間 2002年7月1日~2003年1月31日

(尚、家屋移転延期のため11月中は調査を中断した。)

調査面積 6,600 m²

担 当 者 小林広和·猪股一弘

遺跡は甲府盆地西部の御勅使川扇状地上の南端(標高約270m) に位置している。西方には櫛形山を前衛として北岳を主峰とする白峰三山や鳳凰三山などの南アルプスの山塊を仰ぎ見ること



寺部村附第9・中西第3遺跡 位置図

ができる。周辺には甲府盆地西部地域における古墳時代の拠点集落とされ、100軒を超える住居跡が確認されている村前東遺跡、奈良時代の遺構・遺物が多く確認されている新居道下遺跡などが存在し、弥生時代以降の集落や水田跡が広く展開されている。

2001年度、南町道南西側(面積約1,300㎡)の調査が実施された。今回の調査区域は、便宜上南町道南東側 (①区)と南町道から取り壊し予定家屋敷地南まで(②区)と家屋敷地から北町道北側まで(③区)に分け、面積約6,600㎡の予定で実施した。調査区全域においては、以前水田跡だったため湧水、暗渠埋設により水の流入が激しく、特に①②区では事前にシートパイルを所々に設置し、水路を止めたものの排水用の溝と水汲み上げ用の釜場を設け、対処しながら調査を行った。

その結果、遺構では、①区で土坑3基、溝状遺構8条が確認された。②区では、南北に約30mほどの杭打ち溝、その延長と思われる東西約20mほどの板状の水路が発見された。水路西側端に、樽で造られた浄化槽らしきものが検出された。年代は、江戸後期から昭和初期までの、比較的新しい時代と思われる。その他に水溜跡1基、土坑15基が確認された。③区では住居跡2軒、平安期の土器捨て場1ヶ所が確認された。遺物では、平安時代から中世の土器が主に出土しているが、板状水路付近では、江戸後期の陶磁片なども出土している。しかし、完形品と思われるものはない。他には江戸期の古銭が三枚、③区より出土している。

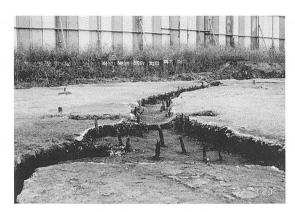
今回の調査において寺部村附第9・中西第3遺跡は、遺構の数は少ないが住居跡、溝状遺構、流路跡、土坑 等が確認され、また暗渠も縦横無尽に張り巡らされ、生活の臭いがすると共に、水に恩恵を受け、水に苦労を した地域だということを再認識した。



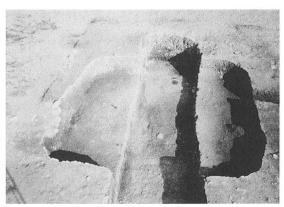
②、③調査区全景



①地区作業風景



②地区杭打ち溝出土状況



③地区 1 号住居跡出土状況



③地区 2 号住居跡出土状況



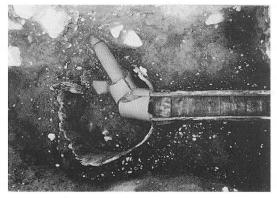
①地区完掘状況



②地区板状水路全体出土状況



③地区1号住居跡土器出土状況



②地区板状水路と樽出土状況

10. 甲府城下町遺跡

所 在 地 甲府市丸の内1丁目地内

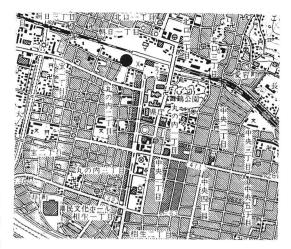
事業名 甲府駅周辺土地区画整理事業(43街区)

調査期間 2002年7月1日~11月1日

調査面積 1,572 m²

担 当 者 森原明廣·深沢容子

甲府城下町遺跡は、JR甲府駅周辺の甲府市街地に広がる近世の都市遺跡である。甲府城下町は16世紀末に始まる甲府城築城に伴い整備され、幕末に至るまで近世甲斐国の中心として栄えた。甲府城下町は甲府城二の堀に囲まれた「武家屋敷地」と



甲府城下町遺跡位置図

その外側の三の堀まで広がる「町人町」から構成されており、その大半は現在の甲府市街地下に埋もれた状態で残されている。今回の調査は、二の堀の内側、甲府城の北郭内の武家屋敷地の一角で行われる土地区画整理事業(ビル建設工事)に先立つ埋蔵文化財の記録保存のための緊急発掘調査である。

調査地点は北郭内を南北に走る街路のひとつである「御先手小路」と甲府城から西へ延びる「馬場先小路」の交差点付近にあたり、江戸時代後期(甲府勤番支配期)の地番では「馬場先小路93番屋敷地」および「同94番屋敷地」の最低2筆の土地区画にまたがる範囲となる。この屋敷地はこれまでに確認されている絵図面や古文書等によれば、16世紀末の甲府城築城期から17世紀代末の甲府家期までは状況不明ながら、18世紀初頭には甲府城主の柳沢吉保・吉里の家臣屋敷が構えられ、その後の18世紀前半から幕末期までは甲府勤番士の屋敷が構えられたことが窺い知られる土地である。

検出された遺構は、204基の土坑、12基の井戸、48条の溝、6基の埋甕・埋桶(トイレ遺構)などであり、その大半が江戸時代のものであると考えられ、一部に中世あるいは明治時代初期のものが含まれている。

土坑の大半は建物や柵等の柱穴と考えられる小規模なものが多いが、炭化材や大量の瓦を廃棄した土坑などもある。なお、近世の武家屋敷の主たる建物と考えられる礎石建物の痕跡は確認できなかったが、その原因は明治期以降の耕作地化などで撤去されたためと考えられる。

溝の大半は東西あるいは南北方向に延びるものであり、甲府城下町の街路区画の方向にほぼ合致する。よって、これらは屋敷地の境界や屋敷内での土地区画に関わるものであった可能性が高いと考えられる。

井戸は江戸時代〜明治時代初期まで綿綿と造られ続けていたことが判明した。井戸の造り方は地山層を掘り込んだだけのもの、木製桶を複数段積み重ねるように埋設したもの、井戸の内面に石垣状に石積みを施すものなど多種多様な技法が確認されている。これら以外にも、トイレ遺構の可能性の高い埋桶や埋甕なども検出された。

出土した遺物(陶磁器類・瓦・木製品など)の総数はコンテナ箱(縦40cm、横30cm、深さ15cm)に換算して約150箱である。出土遺物の大半は江戸時代のものであり、屋敷地に居住した武家が遺したものと考えられる。量的には18世紀後半から19世紀初頭のそのが最も多く、17世紀末から18世紀前半のものは少ない状況である。また、明治36年の甲府停車場開業に伴う大規模な埋め立て工事以前の明治時代初期の陶磁器・ガラス製品なども比較的まとまって出土している。出土遺物には、陶磁器(碗、皿、湯飲み、瓶、徳利、猪口、鉢など)・土器(皿、鍋、コンロ、焙烙など)・土製品(人形、鳩笛、箱庭道具、ミニチュア品など)・木製品(碗・樽・桶・下駄・曲物・建物部材など)・金属器(銭・簪・キセル・火打金など)などがあり、武家の日常生活を示す資料が多く含まれている。

今回の発掘調査では、今後の甲府城下町研究に資するところ大となる江戸時代の武家屋敷の構造およびそこに暮らした武家の日常生活を探る上で欠くことのできない資料を得ることができた。



甲府城下町遺跡全体図(1/200)



全景〈北西→〉



調査風景〈東→〉

11. 甲 府 城 跡〔県指定史跡〕

所 在 地 甲府市丸の内1丁目地内

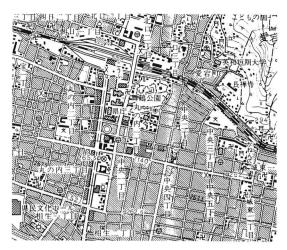
事業名 舞鶴城公園整備事業

調査期間 継続中 調査面積 約700㎡

担 当 者 出月洋文・宮里学・宮久保真紀・楠間美季江

2002年度で調査13年目を迎えた甲府城跡では、昨年度から引き続き稲荷櫓(展望舎)復元に伴う稲荷櫓台石垣改修工事を実施した。調査は2001年7月から解体が始まり2002年1月に完了、同月から改修を開始し、2002年6月に完了した。

改修工事の結果、解体した旧石材数はA・B面(東・北面)の合計で1025石、C・D・E面を含めると1105石となった。その



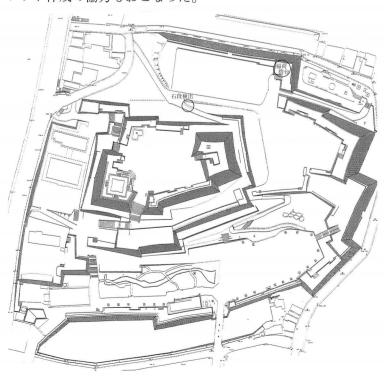
甲府城跡 位置図

内、旧石材再使用率は470石の45.8%、新補石材使用率は538石の52.5%、調整石材が17石の1.7%となった。改修後は櫓台全体を覆屋で囲み、2003年中の完成目標で櫓の建設をおこなっている。

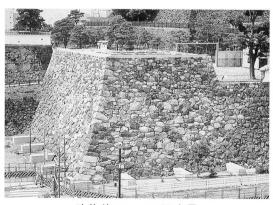
また、園路整備工において立会調査を実施してきた中で、稲荷曲輪内(本丸櫓下周辺)において石段が検出され発掘調査をおこなった。植栽や明治時代以降の改変で積み直しや損傷(抜け落ち)がみられ全貌は確認できなかったが、 $15\sim16$ 段の石段であったと思われる。石材の大きさは $30\times30\sim70$ (cm) のものが主に石段として加工使用され、その間に拳大の礫が埋められている。絵図(江戸中期以降のもの)にも記載されておりその存在が裏付けられた。出土遺物としては瓦が土嚢袋5つであったが、その他に漆喰が確認された。発掘調査完了後は養生の上、そのまま埋設保存とした。

甲府城跡整備事業の一環として、広く県民の方々に事業内容の理解を得るため、11月20日の県民の日に峡中地域振興局建設部・施工者の協力のもと稲荷櫓(展望舎)建設現場説明会を開催した。櫓の土壁構造説明や手斧の実演、小舞竹割り・小舞縄巻きの体験学習、覆屋の内部にての櫓説明・櫓に使用する鯱瓦の説明を実施し、多くの人々が訪れた。

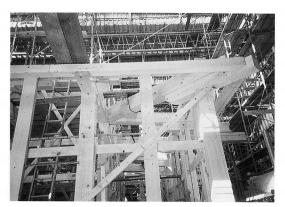
さらに、現場見学会を各市町村教育委員会をはじめ多くの関係機関を対象におこない、その他、建設部発行の舞鶴城公園パンフレット作成の協力もおこなった。



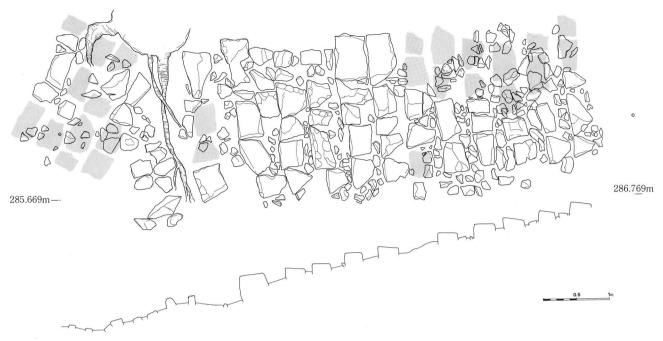
発掘調査位置図



改修後のA・B面全景



櫓建設の様子





石 段 全 景



調査風景



見学会での手斧 実演の様子



小舞縄巻き体験の様子

12. 八ヶ岳東南麓遺跡群ほか遺跡分布調査

12-1. 北杜高校内弓道場・投球練習場建設工事に伴う試掘調査

所 在 地 北巨摩郡長坂町渋沢1007ほか(北杜高校地内)

遺 跡 名 原町農業高校前遺跡

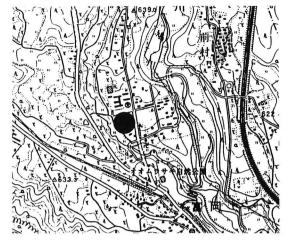
調査期間 ①弓道場建設予定地 2002年4月19日

②投球練習場建設予定地 2002年6月17日

調査面積 ①約140m²②約300m²

担 当 者 保坂康夫・田口明子・正木季洋

重複するところがあるので本調査 (原町農業高校前遺跡)を 参照。



試掘調査 位置図

12-2. 山梨県立博物館(仮称)建設事業に伴う試掘調査

所 在 地 御坂町成田地内

遺跡 名 地耕免遺跡

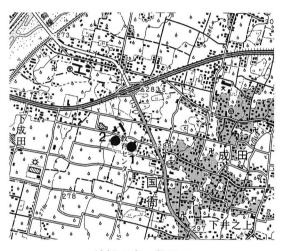
調査期間 2002年5月13日~6月27日、12月2日、2003年1月

14日

対象面積 63,000 m²

担 当 者 長沢宏昌・大柴鉄哉・浅川一郎・田口明子・小林孝子

山梨県立博物館(仮称)建設工事に先だって2002年5月13日より、工事着工が予定されている周辺部全域にわたって試掘調査を実施した。試掘は1m×20mのトレンチを約5m間隔で任意に設定し掘り下げを行った。1992年に隣接する地耕免遺跡を



試掘調査 位置図

発掘調査したため、当初その延長と考え試掘を開始した。最終的にトレンチの数は全部で141本になった。その 結果、地耕免遺跡は対象地域には延びていないことがわかり、新たに當代遺跡・大ネギ遺跡が発見された。

12-3. 日川高校仮設校舎建設工事に伴う試掘調査

所 在 地 山梨市一町田中1062 (県立日川高校地内)

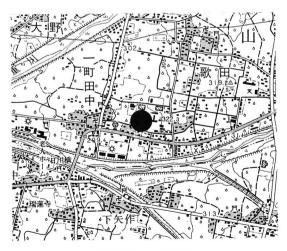
遺 跡 名 日川高校校庭遺跡

調査期間 2002年5月13日

調査面積 900 m²

担 当 者 保坂康夫·正木季洋

仮設校舎建設予定範囲内に1m×2mの範囲でトレンチを11本設定し、重機で工事掘削深度となる70cmまで段階的に掘り下げ、遺構・遺物の有無を確認した。調査の結果グラウンド整備による人為的盛土層の下に、礫をほとんど含まない自然堆積の砂層が堆積していた。自然堆積層は2層に分かれ、上層は灰黄褐色の砂層が堆積する。下層は黒褐色の砂層であり、河川氾濫



試掘調査 位置図

によって堆積した砂層が木の根などによって酸化し、土壌化したものであると考えられる。遺構・遺物は確認されなかった。

12-4. 新環状・西関東道路建設事業に伴う試掘調査

所 在 地 南アルプス市 (旧若草町) 寺部地内

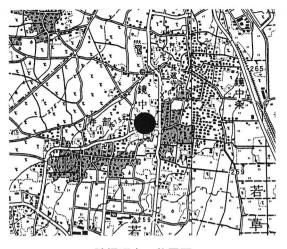
遺跡 名 寺部村附第6遺跡

調査期間 2002年5月16日~5月17日

調査面積 約115.2 m² (800 m²)

担 当 者 保坂康夫·正木季洋

調査区内に幅約1.2m、長さ約10~15mのトレンチを10本設定し、重機により段階的に掘り下げ、遺構・遺物の確認を行った。調査区の東側は表土である耕作土の下は河川堆積による砂礫層になっており、遺構・遺物は確認されなかった。調査区の西側は表土の盛り土層以下耕作土、遺物包含層、河川堆積による砂礫層となっている。遺構は平安時代の住居跡1軒、土坑3基、溝状遺構3条、中世の住居跡1軒が土器を伴って確認された。



試掘調査 位置図

12-5. あけぼの医療福祉センター再整備建設工事に伴う試掘調査

所 在 地 韮崎市旭町上条南割字外御勅使3294外

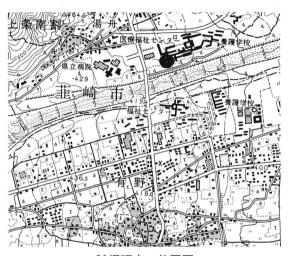
遺跡 名 御勅使遺跡

調査期間 2002年6月10日~6月11日

調査面積 185 m² (66,000 m²)

担 当 者 小林 広和・猪股 一弘・一瀬一浩

試掘位置は、御勅使川北岸の河川敷きにあり、密集した松林の中に位置している。この松林の間をぬった形でトレンチ6本を設定し、重機による段階的な掘り下げを行った後、各段階で職員による観察及び記録による遺構・遺物の有無の確認調査を行った。



試掘調査 位置図

結果、トレンチの土層確認では、水成の並行堆積が認められた。したがって遺構は検出されなかった。また、遺物においても一切確認されなかった。

12-6. 甲府地方裁判所改築に伴う試掘調査

所 在 地 甲府市中央1-10-7

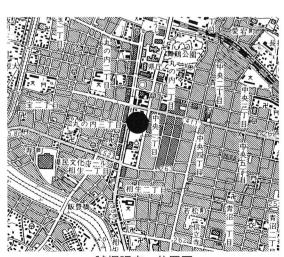
遺跡 名 甲府城下町遺跡

調査期間 2002年6月25日~6月26日

調査面積 36㎡ (5,631.66㎡) 担 当 者 三森鉄治・網倉邦生

地下埋設物の関係から庁舎より北西側に、3m×6mのトレンチを2ケ所設定した。重機で舗装を除去した後、人力による掘り下げと重機による深堀りを行った。

調査の結果、平和通りに近い1トレンチにおいて、地表下約40cmで明治時代、約70cmで江戸時代の遺構面が確認された。江戸時代の遺構面からは配石状遺構や石列が検出され、18世紀末から幕末までの陶磁器などが出土した。東側の2トレンチからは、遺構・遺物は確認されなかった。



試掘調査 位置図

12-7. 新環状・西関東道路建設に伴う試掘調査

所 在 地 東山梨郡春日居町下岩下39外

遺跡 名 中川田遺跡

調査期間 2002年8月8日~8月9日

調査面積 269 m² (4000 m²)

担 当 者 小林 稔・村石眞澄

中川田遺跡内の東部に該当するため、9本のトレンチを設定 した。現地表下約50cmで粗砂や細砂互層からなる洪水堆積層、 地表下約1mから2.5mで巨円礫混じり暗青灰粗砂に達し、平等 川により形成された土地であることが判明した。包含層らしき 黒褐色砂質シルト層が認められたが、炭化粒や焼土粒を含まず、



試掘調査 位置図

遺構も確認できなかった。遺物は土師器細片・縄文時代中期の土器底部細片・摩滅した土師器細片各1点、近 代の染付磁器4点が出土したのみである。試掘地は中川田遺跡の範囲内ではあるが、河川作用が卓越している ため、遺構は存在しないと判断した。

12-8. 都留警察署職員待機宿舎建設事業に伴う試掘調査

所 在 地 都留市古川渡280

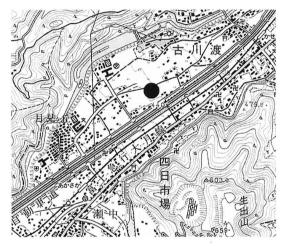
遺 跡 名 都留警察署職員待機宿舎遺跡

調査期間 2002年9月10日

調査面積 139.2 m² (2145 m²)

担 当 者 斉藤 伸·吉岡弘樹

調査対象地は桂川によって形成された河岸段丘上にあり、現 在の国道139号に添って猿橋溶岩流や十日市場溶岩流などが流下 しているためか、遺跡の希薄な地域である。調査は宿舎・物 置・給水ポンプ室の建設予定箇所を中心に大小6本のトレンチ を油圧シャベルによって掘削した。その結果、全体に表土下に



試掘調査 位置図

粘性・しまりが弱い黒褐色土層と、粘性・しまり共にやや弱く赤色スコリアを多く混入する明茶褐色土層が確 認され、その下に猿橋溶岩流あるいは十日市場溶岩流と推される溶岩層が検出された。なお、遺構・遺物の検 出は皆無であった。

12-9. 大野築堤護岸工事に伴う試掘調査(1次)

所 在 地 南巨摩郡身延町大野地先 (大野築堤護岸工事地区)

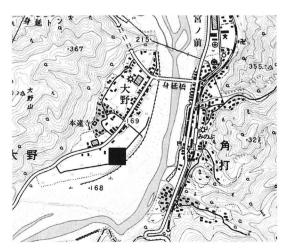
遺跡 名 大野堤防遺跡

調査期間 2002年9月24日~9月30日

調査面積 750 m² (13,000 m²)

担 当 者 保坂康夫、大柴鉄哉

大野堤防遺跡の川表側に、堤防遺跡に平行して一定幅の地割 りがあり、古い堤防遺跡や牛・枠といった治水施設が存在する 可能性があるため、隣接した区域に旧堤防に直交した長さ10~ 15m、幅2m、深さ1.5mの調査溝を16本設定しその有無を調査



試掘調査 位置図

した。江戸時代後期の歴史・地理書『甲斐国志』によると大野と対岸の角打との間に渡船が記載されており、その基地である渡し場の遺構が存在する可能性があるため、河川の流れ方向に平行した長さ15~40m、幅1m、深さ1mの調査溝を22本設定しその有無を確認した。その結果、堤防や牛・枠など渡し場に関するの構造物は確認されなかったが、調査地域の南北両端に近接してある道について、古くは桟橋として利用されていたということである。地割り内の地層は細砂で構成されており、川表側境界部から直径20~5cmの礫を主体とする礫層の堆積が見られ、明瞭な境界線が観察された。地元の方2名から聞き取りしたところ、その地割りは戦前には篠竹の林で、戦後、食料増産のために耕地化したという。堤防前面に竹林を設定するのは甲州流治水の特徴のひとつとされる。おそらく、洪水時に竹林の中に浸入した洪水流が細砂をもたらし、竹林で流速が減退することと竹林の篩いのような効果で、洪水本流と竹林の境界部に急激に大型礫が堆積したものと推定される。また、富士川の流れ方向に平行する調査溝では、直径30~10cmほどの大型礫を主体とする礫層が耕作土直下から発達していた。非常に乾燥した地層であり、木製の構造物は洪水流で失われ、かろうじて残ったとしても乾燥によって消失した可能性が高い。

12-10. 新環状・西関東道路建設に伴う試掘調査

所 在 地 山梨市万力1015番地ほか

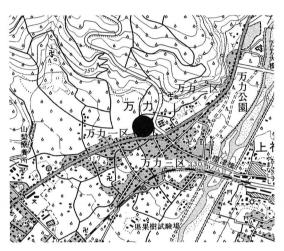
遺跡 名 足原田遺跡

調査期間 2002年10月3日~10月4日

調査面積 510 m² (4,800 m²)

担 当 者 小林孝子·小林弘典

甲府盆地の北東に連なる兜山や棚山等の山麓に位置する。道路に沿うように東西に長い12本のトレンチを設定し、重機で段階的に掘り下げ、各段階で遺物・遺構の有無を確認した。第1号トレンチや第3号トレンチでは表土から30cm前後掘り下げた地点で包含層(黒色土で30cm前後堆積)が確認され、そこから古墳時代前期の甕破片等がまとまって出土した。また調査区



試掘調査 位置図

東側の11号・12号トレンチでは表土下 $70\text{cm} \sim 1 \text{ m}$ で砂礫が厚く堆積し、遺物の出土は見られなかった。

12-11. 西関東連絡道路建設事業に伴う試掘調査

所 在 地 東山梨郡春日居町下岩下地内

遺跡 名 横町遺跡

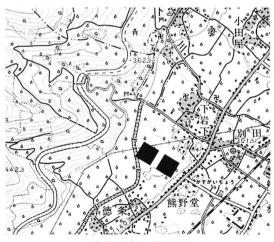
調査期間 2002年10月22日~10月23日

調査面積 288.1 m² (3183 m²)

担 当 者 斉藤 伸·吉岡弘樹

調査対象地の北側部分においては平等川を挟んだ対岸に1999 年度に発掘調査された横町遺跡が対峙している位置にある。こ のため、当初より遺跡の発見が注目されていた箇所であった。 土層の堆積は基本的に粘質土と砂質土の互層となっている。

土層の堆積は基本的に粘質土と砂質土の互層となっている。 さらに隣接して流れる平等川の旧河道とみられる砂礫層が検



試掘調査 位置図

出された。南側地区においては表土層下に、比較的安定した粘質土の堆積が観察でき、さらに $1 \sim 1.2 \text{m}$ の深度 に砂礫層が堆積していた。なお、遺構・遺物の検出はなかった。これらの結果からほぼ全てのトレンチで観察 された砂礫層については、笛吹川の旧本流とされる平等川の影響を受けた土層であろう推測される。

12-12. 新環状道路建設事業に伴う試掘調査

所 在 地 中巨摩郡田富町布施地内ほか

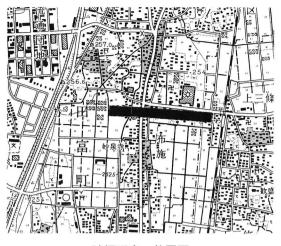
遺跡 名 小井川遺跡

調査期間 2002年10月22日~11月7日

調査面積 約1,300 m² (約15,300 m²)

担 当 者 田口明子·正木季洋

調査区の東側は南北に条里型地割りが残る条里推定地域に位置していることから、東西方向にトレンチを41本設定し、重機により段階的に掘り下げ、遺構・遺物の確認を行った。調査区の西側の微高地となる部分においては約1mの盛土の下で中・近世の土器片・陶磁器片・キセルなどを伴う断面形が「V」字状の溝状遺構を検出したほか、木製桶が埋設されていた。甲



試掘調査 位置図

府一市川大門線の東側に面した調査区においては、調査区の東側にある道路が堤防跡であることが指摘されており、調査の結果、木杭を伴う堤防跡が確認された他、近世以降の溝状遺構、生活面が確認された。甲府一市 川大門線西側の調査区においては2条の溝状遺構が確認され、近世の土器、陶磁器が出土した。

12-13. 新環状道路建設事業に伴う試掘調査

所 在 地 中巨摩郡玉穂町成島地内

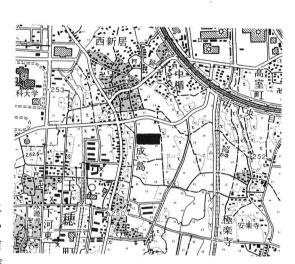
遺跡 名 中田遺跡

調査期間 2002年11月11~11月19日

調査面積 約910 m² (約10,600 m²)

担 当 者 田口明子,正木季洋

東西方向に延びる調査区に沿って17本のトレンチを設定し、 重機により段階的に掘り下げ、遺構・遺物の確認を行った。土 層は最上層の水田耕作土の下は砂層・暗褐色粘質層となってい る。暗褐色粘質層からは水生植物の根・茎が残り、現水田以前 は湿地であったことが窺える。遺物は水田耕作土中から摩耗が 著しい土師器片が1点出土したほか、暗褐色粘質土層中より木 片・木製品が出土した。遺構の検出は皆無である。



試掘調查 位置図

12-14. 国道137号河口2期バイパス建設に伴う試掘調査

所 在 地 南都留郡河口湖町河口字井坪521-1番地外

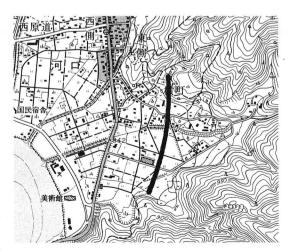
遺 跡 名 滝沢遺跡、井坪遺跡、炭焼遺跡、塚越遺跡

調査期間 2002年11月19日~11月28日

調査面積 9,200 m²

担 当 者 出月洋文·窪田昌彦

延べ延長610mほどの路線内に幅約 $1.5\sim2$ m、長さ $6\sim23$ m、深さ $1\sim2$ mのトレンチを31本設定し、重機で掘り下げた後、人力での精査によって遺構・遺物の有無を確認した。その結果、平安時代の集落跡、田畑跡や、それに伴う遺物を確認した。また、富士山起源と見られる火山灰層と周辺の河川の上流からの数次に及ぶ砂礫の堆積が顕著に見られ、この地域が噴火による



試掘調査 位置図

降灰と水害とにさいなまれてきた歴史を持つ土地であることが明らかになった。

12-15. 焔硝蔵遺跡公園整備に伴う試掘調査

所 在 地 南巨摩郡身延町下山(富士クラフトパーク内)

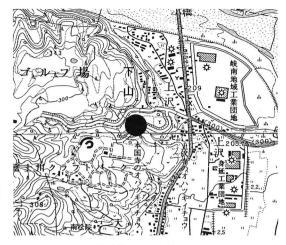
遺跡 名 焔硝蔵遺跡

調査期間 2002年12月10日~12月18日

調査面積 70 m² (400 m²)

担 当 者 保坂康夫・小林弘典

焔硝蔵遺跡は身延町の富士川クラフトパーク整備に伴い埋設保存されていた。今回、史跡としての整備のため、埋設状況の確認と遺跡の性格や時期決定などのための資料整備を目的として、試掘調査を実施した。



焰硝蔵遺跡 位置図

調査は埋設のための埋め土を重機により一部除去し、埋設状況の確認を行なった。焔硝蔵遺跡南半部分について、人力によるトレンチ調査を実施した。

調査の結果、建物の礎石や掘立て建物の小穴などは検出できなかったが、上面平坦面が幅12mであることを確認し、東辺南北方向14m、西辺南北方向7mの南半部分を確認した。上面の東側2/3ほどは、硬い岩盤を削り出した平坦な造成面であった。岩盤は、大半の部分が径30~60cmの大型礫を伴うクサレ礫層で、南端部に径3~1cmの小円礫と粗砂が硬化した砂礫層であった。両者とも非常に硬く、ツルハシでも容易に掘削できない。前者岩盤中の大型礫について、当初の十字トレンチ設定段階で建物礎石の可能性があると考え、大型礫の位置に直行する2本のトレンチを新たに設定したが、配列性は看取できなかった。

東辺部に段構造を確認した。東辺部に幅 $1\sim1.5\,\mathrm{m}$ 、高さ $15\sim30\,\mathrm{cm}$ ほどの犬走り状の小段を確認した。段の斜面側縁部に大型礫の石列を確認した。段の斜面側縁部に径 $50\sim70\,\mathrm{cm}$ の大型礫を一列に配置していた。礫は深く埋設されており、奥行などは大半が不明であるが、小口積みと横口積みとが混在すると思われる。段の面および大型礫石列背後は中型礫を盛り上げて覆われていた。大型礫の石列の背後を径 $10\sim20\,\mathrm{cm}$ の中型礫で厚さ $30\,\mathrm{cm}$ 、幅 $1\,\mathrm{m}$ ほどに盛り上げて封じている。これらの構造は、上部構造物の基礎部分である可能性がある。

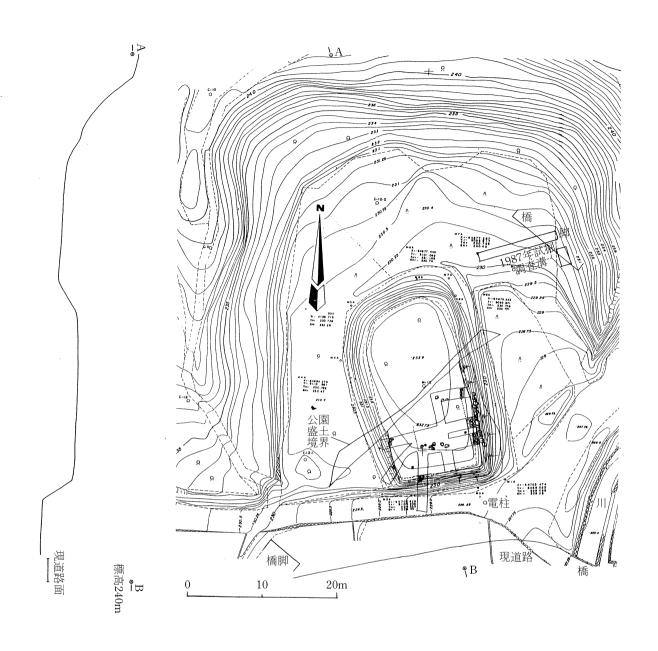
東側斜面および大型礫石列・中型礫盛り石列周囲は細粒土で覆われていた。大型礫や中型礫の盛り上がりの周囲は、白褐色のシルト質土で充填されている。同様な土層は東側斜面全体で確認できたが、その深度は確認できなかった。上面の平坦面がクサレ礫層を削りだしたものであるので、東面の岩盤の削りだし面を白褐色のシルト質土を貼りつけて覆っているものと理解できる。こうした、細粒土は風性堆積によっても形成されると思われるが、急な斜面と縁辺部のみに分布する状況から、人為的なものと判断した。この細粒土は上部構造の部材であった可能性も考えられる。すなわち、土壁ないしは板壁に挟まれた土壁構造であったとも考えられる。

西側部分は中型礫を盛って造成されていた。西側部分は幅3.5mほどが、径 $10\sim20$ cmを中心とした中型礫が分布し、礫間に間隙がみられ、ゆるい構造である。上面は東側斜面と同様な白褐色のシルト質土が覆っていた。さらに、西側縁部は径 $30\sim50$ cmの礫が配置されていた。

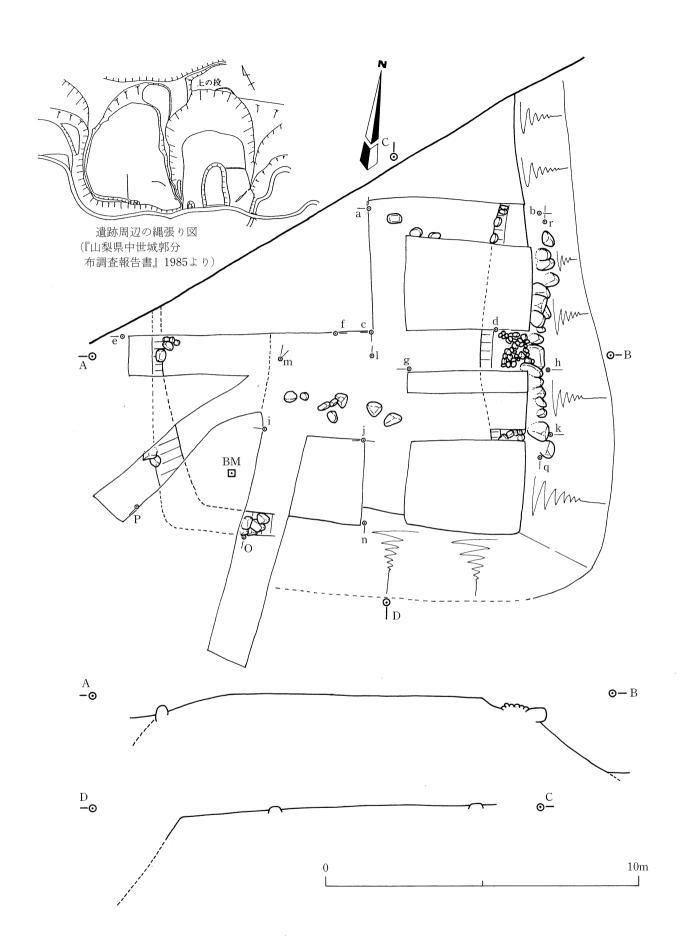
南縁の一部に大型礫の石積みを確認した。南縁西側に設定したトレンチで、径 $30\sim50\,\mathrm{cm}$ の大型礫を2段に積んだ状況を確認した。さらに下に石積みが続くと思われる。

遺物は、表土上面から江戸末頃と思われる染め付け磁器小片3点が得られたものの、遺構の時期を示す遺物については確認できなかった。遺構上面を30cmほどの土層が覆っており、周囲から孤立して土層の供給が風性堆積物のみという場所であり、30cmという土層の厚さは、この遺構が放棄されてから相当の年数の経過を物語る。染め付けの出土から覆土の表層で江戸末とすると、中世末頃である穴山氏創建伝承説も否定できないものと思われる。

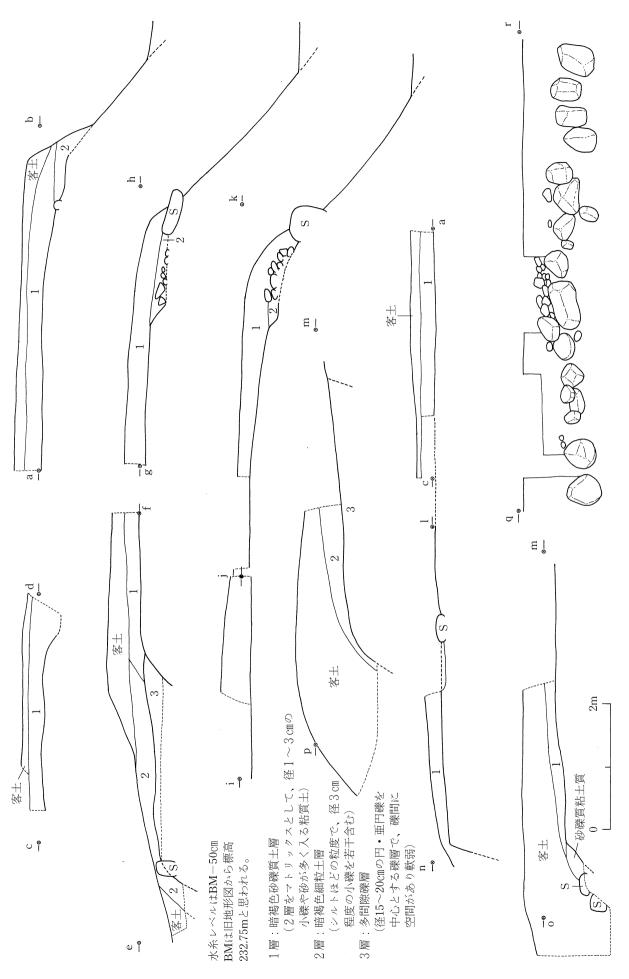
焔硝蔵遺跡は今回調査した部分を含み、さらに大きな広がりを持つと思われる。(第2図上)。



第1図 焔硝蔵遺跡旧地形と試掘溝配置状況(1/500) (旧地形図は、『八ヶ岳東南麓他遺跡分布調査報告書』1987より)



第2図 焔硝蔵遺跡南半部調査状況(1/120)





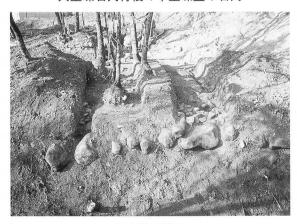
焔硝蔵遺跡遠景



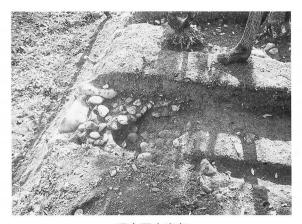
大型礫石列遠景



大型礫石列背後の中型礫盛り石列



南西部石積み



調査区東半部



大型礫石列調査状況



調査区中央部造成面



西半部の中型礫による造成部分

12-16. 大野築堤護岸工事に伴う試掘調査(2次)

所 在 地 南巨摩郡身延町大野839番地 他先

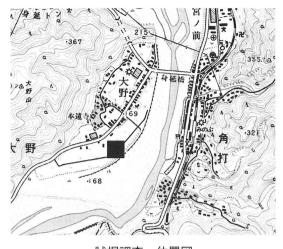
遺跡 名 大野堤防遺跡

作業期間 2003年1月21日~1月22日

調査面積 約284 m² (4,100 m²)

担 当 者 斉藤 伸·吉岡弘樹

対象地には、日蓮宗大野山本遠寺参道に対応する船着き場桟 橋と感じさせる石積みがみられると同時にこれとほぼ直交して 堤防状の高まりが2箇所で確認された。調査はこれらの遺構想 定箇所に対して直交する方向に重機を用いてトレンチを設定し



試掘調査 位置図

掘り下げた後に精査を行い、土層および堤防をはじめとする遺構や遺物の有無を確認した。その結果、桟橋状の石積みは明治期以降の時期が比定できる谷積み技法で構築されており、桟橋の可能性は極めて薄いことが判明した。当該地が堤防遺跡であることの証左となる調査の成果はほとんど確認できなかった。

12-17. 山梨県酪農試験場内堆肥盤建設に伴う試掘調査

所 在 地 北巨摩郡小淵沢町上笹尾3366番地 (川梨県酪農試験場内)

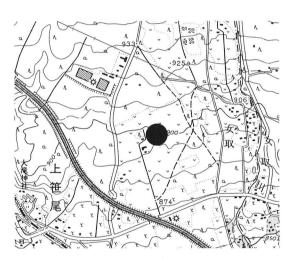
遺 跡 名 西城仙遺跡

調査期間 2003年2月17日

調査面積 66 m² (600 m²)

担 当 者 坂本美夫·小林弘典

調査区は八ヶ岳南麓に位置し、中央自動車道北側に位置する 牧場のほぼ中央の部分である。調査区内には杉の木が数本あっ たため、これらの間を縫うように東西方向に3本のトレンチを



試掘調査 位置図

設定し、重機で段階的に掘り下げ、各段階で遺構・遺物の有無を確認した。各トレンチとも、褐色土・黒色土 を経て礫層・ハードローム層が認められた。これらの各層ともに、遺構・遺物は確認できなかった。

13-1. 県庁構内改良工事に伴う立ち会い調査

所 在 地 甲府市丸ノ内1-6-1 (山梨県庁構内)

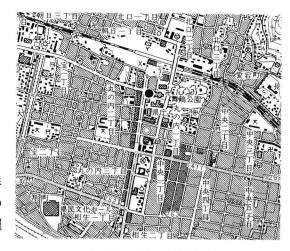
遺跡 名 甲府城跡

調査期間 2002年10月25日~11月8日、11月20日

調査面積 78 m²

担 当 者 保坂康夫

県庁構内の給水管改修工事および光ファイバー配管工事に伴い、土日を含み立会調査を実施した。幅60cm、深さ1mほどの掘削であり、大半が近代以降の廃棄物を伴う盛り土範囲内の掘削であったが、一部で甲府城跡に伴う遺構を確認した。11月2日(土)に行なったバルブボックス設置のための幅2.3m、長さ



立ち会い調査 位置図

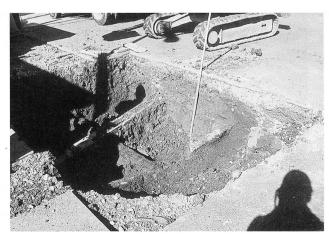
5 m、深さ1 mの掘削部分の東部で検出した。横口を四角に整形した大型礫を、整形した平坦な横口をそろえて南北方向に配列したものである。礫の大きさは面をそろえた方向で30~60cm、奥行30~40cm、高さ40~50cmである。奥行部分に裏込めの礫が若干みられ、礫の面を立てるための根石も確認できる。確認した大型礫は5個で、古い水道間で1個が排除されていたので、本来は6個であったと思われる。掘削部北面の土層断面を観察したところ、地表面のアスファルト面から下15cmのアスファルト砂利層、厚さ15cmの粘土質土層の下に石列に関する土層が残存した。大型礫の背後に拳大前後の礫が入る暗赤褐色粘土質土層があり、大型礫の掘り形を埋める裏込め層と思われる。裏込め層を覆い厚さ25cmで直径5cm程度の風化軟質化したクサレ礫を多量に含む暗褐色粘土質クサレ礫層と、その下位の厚さ10cmの白色粒子を多量に含む粘土質土層が存在する。両者は厚さが一定しており、裏込め層から西側へ広がっていた。おそらく、土塁を構成する土層と思われる。暗褐色粘土質クサレ礫層中には平瓦が見られ、甲府城跡創建時の土塁ではないことを示している。暗褐色粘土質クサレ礫層の東端面は東方向に急角度で傾斜しており、その前面には小礫を含む明黒褐色粘土質土層が乗り、大型礫を覆っている。その前面は緩傾斜面である。さらにその上面と大型礫の前面の溝内を充填して砂を若干含む黒色粘土質土層が見られる。大型礫の掘り形は地山である褐色クサレ礫層に掘り込まれている。

石列前面は溝と思われ、大型礫は溝底面に据え置かれているようで、溝の深さは大型礫の上面から40~50cm ほどであろう。溝の東半分は最近の工事で撹乱されており、砕石層が石列東端から30~60cmの部分に見られる。

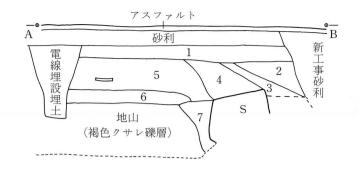
こうした石列遺構は2001年にも調査されており、その北側延長部分を今回確認したものと思われる。2001年 調査では東西2列の石列で幅1mの溝が形成されており、今回の部分も2列の石列の東側部分が除去されている ものと考えられる。こうした状況から、これらの石列は、甲府城跡楽屋曲輪西側の土塁裾部を区切る溝を構成 する石列と考えられる。



石列出土状況(北から)



石列と土層断面(南東から)



1層:暗褐色粘土質土層 2層:黒褐色粘土質土層

3層:黒色粘土質土層

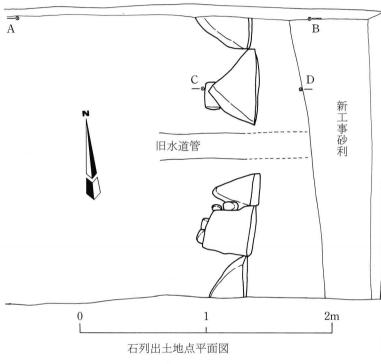
(溝内を充填、瓦片を含み礫が少ない)

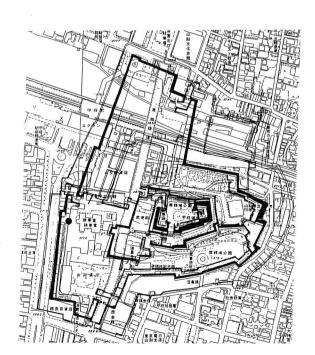
4層:明暗褐色粘土質土層(礫が少ない)

5層:暗褐色粘土質クサレ礫層(径5cm程度の

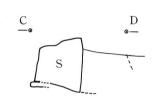
クサレ礫を多量に含み瓦が入る)

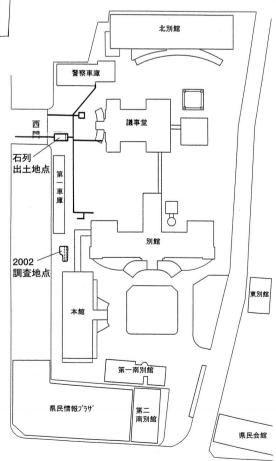
6層:白褐色粘土質土層(白色粒子も多量に含む) 7層:暗赤褐色粘土質土層(拳大の礫を多く含む)





甲府城縄張りと調査地点(黒丸)





県庁構内と調査地点(太線が立会調査地点)

13-2. 砂防堰堤建設工事に伴う立ち会い調査

所 在 地 甲府市黑平町黒平地内

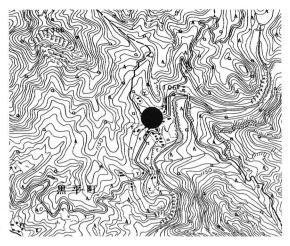
遺跡 名 黒平遺跡

調査期間 2002年5月14日

調査面積 10 m² (10 m²)

担 当 者 保坂康夫·正木季洋

工事予定区のほとんどが尾の沢川に面した斜面部であり、遺物・遺構の存在が見込まれないことから、工事用道路建設で掘削される比較的平坦な部分を重機で掘り下げ、遺構・遺物の有無を確認した。調査の結果、河川堆積による大型礫を多量に含む河床礫層が堆積しており、遺構・遺物は確認されなかった。



立ち会い調査 位置図

13-3. 西関東道路工事用仮橋建設工事に伴う立ち会い調査

所 在 地 東山梨郡春日居町下岩下

調査期間 2002年4月15日

調査面積 7.75 m²

担 当 者 保坂康夫·正木季洋

結果 遺構・遺物なし

13-4. 整理用プレハブ設置工事(基礎)に伴う立ち会い調査

所 在 地 東八代郡中道町下曽根923番地 (山梨県立考古博物館構内)

遺跡 名 石清水遺跡

調査期間 2002年6月17日

担 当 者 坂本美夫・森原明廣

結 果 遺構・遺物なし

13-5. 甲府中央郵便局増築工事に伴う立ち会い調査

所 在 地 甲府市太田町6-10

調査期間 2002年7月2日、8月26日

担 当 者 小林稔·村石眞澄

結 果 土師器・灰釉陶器の細片と染付け片が出土

13-6. 甲府駅北口県職員駐車場外周部他改修工事・武田通り拡幅工事に伴う立ち会い調査

所 在 地 甲府市北口2丁目(県職員駐車場西側)

遺跡 名 甲府城下町遺跡

調査期間 2002年12月12日~12月13日

調査面積 15 m² (540 m²)

担 当 者 坂本美夫・窪田昌彦・深沢容子・森原明廣

結 果 江戸時代後期を中心とした遺構群が残存し、該期の遺物も散布

13-7. 青い鳥老人ホーム建設事業に伴う立ち会い調査

所 在 地 東山梨郡春日居町小松855-192番

調査期間 2003年1月24日

調査面積 37.5 m²

担 当 者 坂本美夫

結 果 遺構・遺物なし

Ⅲ 県内の概況

1. 発掘調査

2002年度に実施された県内の発掘調査件数は、試掘調査を含めて165件となっている。その内訳は、県が29件・市町村が136件である。発掘調査の原因は、河川1件、工場1件、学校6件、住宅54件、区画整理12件、ガス1件、農業関連8件、その他開発26件、宅地造成8件、その他建物18件、道路24件といった緊急調査と、5件の学術調査や3件の遺跡整備があった。

2. 県指定文化財

2002年4月24日に新たに県指定文化財(有形文化財)として以下の物件が指定された。

中道町にある「右左口区有文書及び関連資料一括」、考古資料としては、御坂町の「桂野遺跡出土、大形深鉢土器」、中道町の「稲荷塚古墳出土、銅鋺・象嵌大刀等出土品一括190点」、甲府市の「大坪遺跡出土、刻書土器」、 双葉町の「塔之越経塚出土、経筒・銭貨等一括」、史跡としては上野原町の「恋塚一里塚」の6件を県指定にした。

右左口区有文書及び関連資料一括は、右左口区有文書2339点、近代文書128点、青年団関係文書40点からなっている。特に右左口区有文書のうち徳川家康朱印状は、徳川家康が地域に与えた文書であり、その地域を知る上でも貴重な資料である。

桂野遺跡出土の土器については、縄文時代中期を代表する秀作で、胴部前面に施された渦巻文は他に例を見ない。また、各種展示会に出展されたり、美術書、図録などで広く公開されているなど本県を代表する縄文式 土器の一つである。

稲荷塚古墳出土遺物等については、出土遺物を副葬する実力者であること、またこの時期の中道地域を掌握 した首長層の墓と見られることから、古代甲斐国の政治的動向を考える上で貴重な一括資料である。

大坪遺跡出土の土器については、土器に刻まれた文字が「和名類聚抄」に記載された山梨郡表門郷であること、この地域の地名が「和声」で古代の表門が転訛したという推定を裏付ける貴重な文字資料である。このように、文献資料と考古資料が一致するきわめて貴重な資料である。

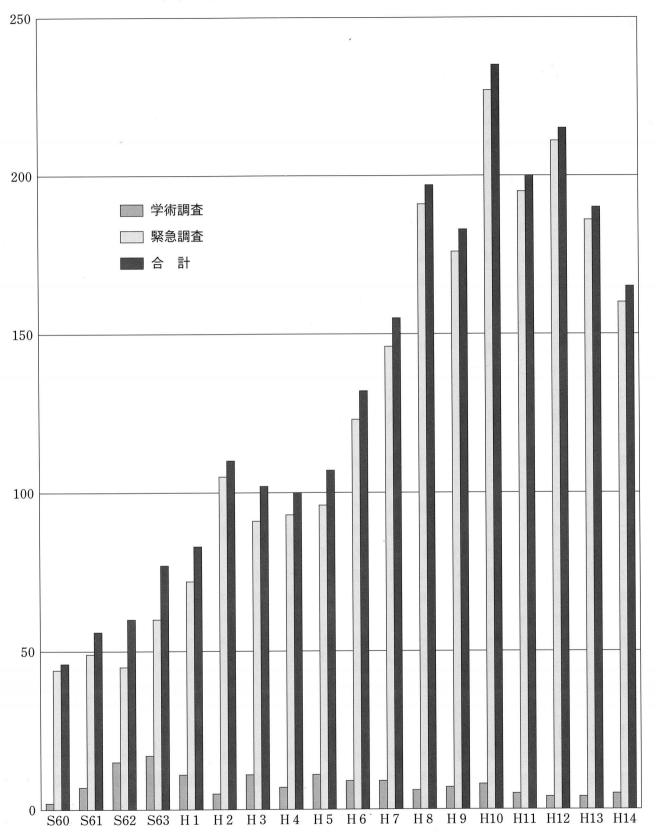
塔之越経塚出土の一括資料については、廻国納経思想を示す一括資料として貴重であり、なかでも六角宝幢 形経筒は製作技法に優れ、遺存状態も良好である。また、中世甲斐国の在地における宗教観の一端を読みとる ことができる重要な資料である。

史跡指定となった恋塚一里塚については、江戸日本橋を起点とする甲州街道に一里毎に築かれた塚で、江戸時代初期に築造され、江戸時代から明治時代中期まで、甲州道中の交通の標識として使われた。また、県内に唯一現存する塚でもある。

3. 調查体制

2002年度末の埋蔵文化財専門職員(埋蔵文化財担当及び担当可能職員)について、県では学術文化財課5名(うち博物館建設室1名)、埋蔵文化財センター33名(うち非常勤嘱託3名、臨時職員1名)、考古博物館2名(外に非常勤嘱託1名)、市町村では、甲府市7名、韮崎市2名(外に非常勤嘱託1名)、大月市2名、都留市2名、御坂町2名、八代町2名、大泉村2名、塩山市、富士吉田市、山梨市、牧丘町、春日居町、勝沼町、石和町、一宮町、境川村、中道町、豊富村、三珠町、増穂町、竜王町、敷島町、玉穂町(非常勤嘱託1名で昭和町と田富町を兼務)、甲西町、若草町、櫛形町、白根町、八田村、双葉町、明野村(外に文化財調査員1名)、高根町、須玉町(外に非常勤嘱託1名)、長坂町(外に非常勤嘱託1名)、小淵沢町、白州町、武川村、上野原町に各1名となっており、63市町村のうち37市町村に埋蔵文化財担当者が配置されている。

山梨県埋蔵文化財発掘調査件数の推移

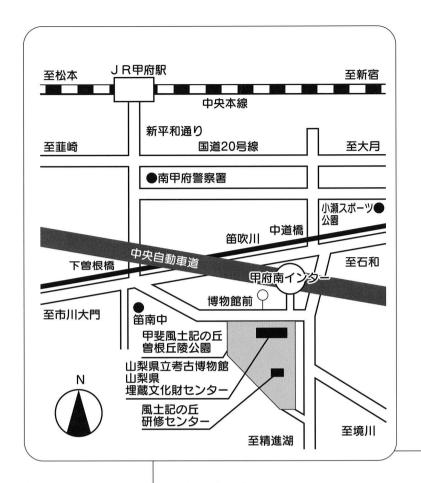


年	度	S 60	S 61	S 62	S 63	H1	H2	НЗ	H4	H5	Н6	H7	Н8	Н9	H10	H11	H12	H13	H14
学術	 詞 査	2	7	15	17	11	5	11	7	11	9	9	6	7	8	5	4	4	5
緊急	急調査	. 44	49	45	60	72	105	91	93	96	123	146	191	176	227	195	211	186	160
合	計	46	56	60	77	. 83	110	102	100	107	132	155	197	183	235	200	215	190	165

	所在地	面積(㎡) 遺跡の種類	遺跡の時代	調査原因	調査主体者	鰮	査期 間
1 武田城下町遺跡	甲府市宮前町11-15	401	中康	個人住宅	甲府市教育委員会	H 14. 4. 4	
_	中巨摩郡八田村六科1187-1,1187-2	1527 その他の遺跡(堤防址)	中世·近世	集合住宅	八田村教育委員会	H14. 4. 5	
3 武田城下町,大手下遺跡	甲府市大手3丁目3821-1	367.34 散布地·城下町	縄文・中世	個人住宅	甲府市教育委員会	4	~ H14.4.5
	甲府市屋形2丁目2391-1,2391-2		車	個人住宅	中府市教育委員会	H14. 4. 5	
_	- 1	182.65 その他の遺跡(城下町)	中中	集合住宅	中府市教育委員会	H14. 4. 10	~ H14. 4. 12
_	甲府市千塚3丁目2147-3の一部	161.84 散布地		個人住宅	甲府市教育委員会	H14. 4. 22	~ H14. 4. 24
-	東八代郡八代町北1616	60 散布地	古墳・奈良・半安・中世・近世	集合任宅	八代則教育委員会	H14. 4. 19	~ H14.5.2
_	塩山市熊野88-1,99-1	2198 集洛跡	古墳	店舗 4.人公士	温川市教育委員会	H14. 4. 24	
	東八代郡御坂町下黒駒411,412	1266 集落跡	- 光	集合任名	御	H14. 4. 23	~ H14. 4. 30
\rightarrow	甲府市屋形3丁目5-32	811.64 その他の遺跡(城下町)	中中	個人住宅	甲附市教育委員会	H14. 4. 26	
11 髪切塚遺跡	塩山市下塩後341-2,347-2,348-2	824 散布地	中	出版	塩川市教育委員会	H14. 4. 25	~ H14.5.31
青六遺跡	中巨摩郡玉穂町下河東1876-1外	11233 散布地	中世・近世	土地区画整理	王穂町教育委員会	H14. 4. 22	~ H14.9.30
上林用遺跡	北巨摩郡白州町鳥原429外	990 集落跡	縄文・平安・中世	農業基盤整備事業(農道含む)	白州町教育委員会	H14. 4. 9	~ H14.9.30
平山遺跡	北巨摩郡須玉町江草5921外	3000 集落跡	縄文・平安・中世	農業基盤整備事業(農道含む)	須玉町教育委員会	H14. 4. 2	~ H14.7.31
15 野牛島·石橋遺跡	中巨摩郡八田村野牛島2774外	1500 散布地	平安・中世・近世	その他開発(まちの駅建設)	八田村教育委員会	H14, 4, 15	~ H14. 4. 22
武田城下町遺跡	甲府市武田1丁目111外	834.43 城下町	中市	その他の建物(事務所)	甲府市教育委員会	H14. 4. 24	~ H14.5.10
宮の前遺跡	南都留郡西桂町下幕地地内	506 集落跡	縄文	その他開発(下水道発進基地)	山梨県教育委員会	H14. 5. 7	~ H14.6.28
大木戸遺跡	塩山市下於曽238-3外	150 散布地	縄文·平安	道路	山梨県教育委員会	H14.5.9	~ H14.6.21
19 人反田遺跡	中巨摩郡玉穂町下河東1648外	3896 その他の遺跡(不明)	その他(不明)	土地区画整理	玉穂町教育委員会	H14.5.8	~ H14.5.31
根本山遺跡	北都留郡上野原町上野原字新町1435-1,2	20.00 散布地	縄文	個人住宅	上野原町教育委員会	H14, 5, 13	~ H14.5.13
甲府城下町潰跡	甲府市丸の内2丁目34-1	148.89 城下町	近世	個人住宅兼工場又は店舗	甲府市教育委員会	H14. 4. 16	~ H14.5.8
寿町遺跡	甲府市寿町475-2,479-5	8.00 散布地	古墳	個人住宅	甲府市教育委員会	H14.5.7	~ H14.5.7
23 幸町A遺跡	甲府市湯田2丁目489		弥生	個人住宅	甲府市教育委員会	H14.5.9	~ H14.5.9
	甲府市塩部3丁目564-1	26.00 散布地	弥生·平安	個人住宅	甲府市教育委員会	H14. 5. 13	~ H14.5.13
	中戶產點若草町寺部推內		その他(不明)	現別	山梨県教育委員会	H14. 5. 15	~ H14.5.17
日川高校校庭遺跡	黎市一丁目中日 高校地内	900.00 その他の遺跡(不明)	その街	学校施設	山梨県教育委員会	H14, 5, 13	~ H14.5.13
27 武田城下町遺跡	甲府市下積翠寺町字御所下795-1.796-1	201	中年	その他の建物(倉庫増築)	甲府市教育委員会	H14. 5. 20	~ H14.5.22
	甲府市屋形3丁目1789-1.2	373.64 その他の遺跡(城下町)	中中	集合住宅	甲府市教育委員会	H14. 5. 21	~ H14.5.24
29 甲府城下町遺跡	甲府市北口2丁目15-33	6.25 その他の遺跡(城下町)	近世	個人住宅	甲府市教育委員会	H14, 5, 22	~ H14.5.22
	東八代郡一宮町国分1573,1598		古墳	ガス電話	一宫町教育委員会	H14. 5. 20	~ H14.7.31
	甲府市小松町414-2	8.00 散布地	古墳·平安	個人住宅	甲府市教育委員会	H14. 5. 28	~ H14.5.29
32 竜塚古墳	東八代郡八代町米倉2086-51外	280.00 古墳	古墳	保存目的の範囲確認 遺跡整備	八代町教育委員会	H14.5.8	~ H15.3.31
井富第4遺跡	北巨摩郡大泉村西井出字井富7013外	24,421.00 散布地	縄文	宅地造成	大泉村教育委員会	H14. 4. 25	~ H14.5.17
34 並木上第3遺跡	北巨摩郡大泉村谷戸字並木上8974-643	2,152.00 散布地	縄文	宅地造成	大泉村教育委員会	H14. 5. 30	~ H14.5.30
	甲府市千塚5丁目3405-1外	54.00 散布地	古墳·平安	集合住宅	甲府市教育委員会	H14. 5. 24	~ H14.5.28
武田城下町遺跡	甲府市大手2丁目4080-3	188.79 その他の遺跡(城下町)	中世	個人住宅	甲府市教育委員会	H14. 6. 5	~ H14.6.6
武田城下町遺跡	甲府市屋形3丁目1572-3	171.53 城下町	中冊	個人住宅	甲府市教育委員会	H14. 6. 7	~ H14.6.14
38 武田城下町遺跡	甲府市屋形3丁目1579-5	168.71 城下町	中世	個人住宅	甲府市教育委員会	H14.6.7	~ H14.6.14
	甲府市大手3丁目3768-2,3768-6		_	集合住宅	甲府市教育委員会	H14. 6. 13	~ H14. 6. 28
40 上窪遺跡	中巨摩郡玉穂町下河東字細町526-1外	2951.00 その他の遺跡(不明)	その他(不明)	土地区画整理	王穂町教育委員会	H14. 6. 5	~ H14. 6. 30
41 町西遺跡	中巨摩郡玉穂町成島字町西1632外	2257.00 不明	その他(不明)	土地区画整理	王穂町教育委員会	H14. 6. 19	~ H14.7.8
42 甲府城下町遺跡	甲府市武田2丁目10-2	459.55 その他の遺跡(城下町)	近世	個人住宅	甲府市教育委員会	H14. 6. 24	~ H14.6.25
43 東畑遺跡	甲府市横根町939-1	8.00 散布地	古墳·奈良·平安	個人住宅	甲府市教育委員会	H14. 6. 26	~ H14.6.28
44 甲府城下町遺跡	甲府市中央1-10-7	5632.00 城下町	中世	その他建物(裁判所の改築)	山梨県教育委員会	H14. 6. 25	~ H14. 6. 26
45 原町農業高校前遺跡	北巨摩郡長坂町渋沢1007地内	100.00 集落跡	縄文	- 1	山梨県教育委員会	H14. 6. 1	~ H14.7.31
46 鰍沢河岸跡	南巨摩郡觗沢町1423-1外	6137.50 その他の遺跡(河岸跡)	近世	道路 河岸 土地区画整理	山梨県教育委員会	H14. 6. 24	~ H15.3.31
47 甲府城下町遺跡	甲府市丸の内1丁目12-1	1612.82 城下町	近世	その他建物(立体駐車場)	甲府市教育委員会	H14. 6. 26	~ H14.7.5
48 寺部村附第9·中西第3遺跡	OH:	8250.00 散布地 集落跡	平安·中世	道路	山梨県教育委員会	H14.7.1	~ H14. 12. 30
49 甲府城下町遺跡	甲府市丸の内1丁目1-3	1572.00 城下町	近世・近現代	土地区画整理	山梨県教育委員会	H14.7.1	~ H14, 10, 31
50 山の神遺跡	北巨摩郡須玉町新町829外	2605.00 散布地	縄文・平安・中世・近世	土地区画整理	須玉町教育委員会	H14. 6. 25	~ H14.8.9
51 原町農業高校前遺跡	北巨摩郡長坂町渋沢1007地内	360.00 集落跡	縄文	学校施設	山梨県教育委員会	H14.7.1	~ H14.7.31
	中巨摩郡玉穂町下河東字上窪404	\rightarrow	古墳·奈良	土地区画整理	王穂町教育委員会	H14.7.2	~ H14.9.30
53 緑ヶ丘1丁目遺跡	甲府市縁ヶ丘1-27-2,27-6	8.00 散布地	野上	個人在外	日本日本一日本	H14 7 1	~ H14 7

No 選 跡 名	所 在 地	面楮(m²) 遺跡の種類	遺跡の時代	調査原因	調査主体者		査期 間
朝気遺跡	甲府市朝気3丁目28-1	214.94 集落跡	茶	個人住宅	甲府市教育委員会	H14.7.12	~ H14.7.15
-	甲府市古府中町字土屋敷1346-13	\rightarrow	中中	個人住宅	甲府市教育委員会	H14. 7. 15	~ H14.7.24
\rightarrow	北巨摩郡大泉村西井出字石堂8344-2外		縄文・平安	個人在名	大泉村教育委員会田中北北本委員人	H14. 6. 27	~ H14. 6. 2/
-	甲府市屋形2—2299—3	イの街の	田町	個人住宅兼用上場人は石舗事等中の事件の事件を表し	中府印教育安貝克	H14. /. 10	~ H14.7.10
_	北口摩郡日州川,島原434末丘 薩郡 海衛町 主治師 1925年	450.00 果洛砂 吸脂砂	無人·宗良·卡女·中回 中非	展来 本	山利目粉杏禾昌仝	H14.7.17	~ H14, 12, 20 ~ H14 10 95
61 牛並村聯絡企選城	用口序每省650月 6 450 104074 由口序供某指下4 31876-1	2400.00 田/加助 その他の造跡(冬甲)		点出 益数	出水ボ状片及片点 上 立 正 か 音 本 音 合 上 立 正	H14 7 29	
	中 中 中 中 中 中 中 中 中 中	散布施	編文·弥生	MAC	甲府市教育委員会	H14.7.29	~ H14.8.7
-	北巨摩郡大泉村谷戸2840.2841			公園造成	大泉村教育委員会	H14. 7. 29	~ H14.8.16
	東山梨郡春日井町下岩下39外	4000.00 集落跡	平安	道路	山梨県教育委員会	H14.8.7	~ H14.8.7
-	東八代郡一宮町坪井字芝原田826	_	平安	宅地造成	一宫町教育委員会	H14. 6. 4	~ H14. 6. 28
_	東八代郡一宮町東原字宮東334	253.83 集落跡 城館跡	弥生・古墳・奈良・平安・中世	その他の建物(消防詰所)	一宫町教育委員会	H14.7.9	~ H14.8.31
67 當代,大ネギ遺跡	東八代郡御坂町成田字當代,大ネギ地内	800.00 散布地	縄文·古墳·平安	その他建物(県立博物館)	山梨県教育委員会	H14. 8. 1	~ H14.8.27
68 村中遺跡	東八代郡芦川村中芦川字村中583-2外	285.97 散布地	平安	その他の建物(庁舎増築)	芦川村教育委員会	H14. 8. 12	~ H14. 8. 12
69 下村遺跡	南都留郡忍野村内野字75,76-1	5000.00 散布地	平安	その他建物(保育所建設)	忍野村教育委員会	H14. 8. 10	~ H14. 8. 16
	塩山市熊野941	382.00 散布地	平安	学校建設	塩山市教育委員会	H14. 8. 13	~ H14.8.20
71 桜畑遺跡	東八代郡一宮町東原262-1	639.00 集落跡	奈良・平安	店舗	一宫町教育委員会	H14. 8. 12	~ H14.9.30
\rightarrow	北都留郡丹波山村字舟越1442外	150.00 その他の遺跡(金山)	中世・近世	学術研究(金山遺跡確認・調査研究)	丹波山村教育委員会	H14. 8. 28	~ H14.9.30
	甲府市大手3丁目3814-2,3818-4		# <u></u>	個人住宅以外海影	中府市教育委員会中創世級会委員会	H14. 8. 26	~ H14.9.6
-	北日摩却長吸叫於水1007外			子伙连改 2个小事情(郑绍教会男群目往操存令)	山米宗教月安見云山利目粉杏米昌本	U14.0.2/	~ H14.9.30
-	毎寅巾占川渡280 田庁士昌平9丁口1710 1	2145.00 ての他の遺跡	が主・十女・その地	て v7lb 建物 (4p由言宗省戦 以下) (4ph 自言宗省 戦 以下) (4ph 自言宗名 性 知识) (4ph	田広士粉杏禾目へ	H14. 5. 10	~ H14 9 0
77	T 位 中	200.00 後一門	十三	画人円方面人件外	甲府市教育委員会	H14.9.9	~ H14.9.17
_	田存市屋形3-1777-994[8.00 小〇名の語器(表下严)	中 中 本	面入开口面人件的	甲府市教育委員会	H14 9 9	~ H14 9 9
-		_	十三 古墳·奈良·平安	正が正立		H14. 9. 9	~ H14.9.27
	大月市富浜町宮谷790-3	500.00 集落跡	網文·平安	その他建物(歴史資料収蔵庫)	大月市教育委員会	H14.7.1	~ H14.8.31
-	北巨摩郡大泉村西井出字石堂8240-7504		縄文	個人住宅	大泉村教育委員会	H14. 8. 27	~ H14.8.27
-	北巨摩郡大泉村谷戸字西泉8411-1	1567.00 散布地	縄文	個人住宅	大泉村教育委員会	H14. 8. 27	~ H14.8.27
83 本郷遺跡	甲府市善光寺3丁目2245-83,84	3.00 散布地	縄文・古墳・平安・中世	個人住宅	甲府市教育委員会	H14. 9. 12	~ H14.9.12
	東八代郡境川村寺尾2782外		縄文・平安	農業基盤整備事業(農道含む)	境川村教育委員会	H14. 9. 18	~ H14.9.20
-	甲府市古府中町2611	2000.00 城館跡	中中	遺跡整備	甲府市教育委員会	H14. 8. 9	~ H14. 12. 27
86 史跡武田氏館跡	甲府市古府中町字三角3498外		中申	道路	甲府市教育委員会	H14. 9. 11	~ H14.9.30
87 松ノ尾遺跡	中巨摩郡敷島町中下条字御証作1435-1外		組文·古墳·奈良·平安	電気	數島町教育委員会	H14. 8. 29	~ H14.10.7
_	山梨市落合224(中沢),上岩下316外(武家)		弥生·平安	道路	山梨県教育委員会	H14. 9. 2	~ H15. 3. 26
-	甲府市東光寺3丁目1743-8,1744-11		古墳·半安·中世	個人任名	中附市教育委員会	H14. 9. 17	
-	中巨摩郡士槵町下河東字平田宮1802-2外。	15198.00 散布地	半安・甲世・近世十二年	土地区画繁排作人存在	土郡川教育安貞宗	H14, 10, 7	~ HI4. 12. 27
91 (東加遠跡 02) 日百田造跡	東八八小都収明井/二上900-2 	1317.00 取中地 4866 動	占填,宗及,十女 古塘,平东	米口江七遍路		H14. 10. 9	~ H14 10.3
-	東山梨郡春日居町下岩下地内		かの第	超期	山梨県教育委員会	H14, 10, 22	~ H14.10.23
-	北巨摩郡須玉町藤田字滝下28-1,28-2		縄文・平安・近世	個人住宅兼工場又は店舗	須玉町教育委員会	H14. 10. 8	~ H14.10.8
_	甲府市和田町758-1外	散布地		集合住宅	甲府市教育委員会	H14, 10, 17	~ H14. 10. 25
-	中巨摩郡田富町布施地内	その他		道路	山梨県教育委員会	H14. 10. 21	~ H14.11.8
	中巨摩郡白根町上八田小字小六科233-4	567.00 その他の遺跡	中中	15	山梨県教育委員会	H14. 10. 22	~ H14. 10. 24
\rightarrow	北巨摩郡大泉村西井出字井富6813-1外		縄文	道路 宅地造成	大泉村教育委員会	H14. 10. 21	~ H14.10.31
	東八代郡芦川村鶯宿字天神原466-1外	4116.64 散布地	縄文・平安	その他の建物(福祉施設建設)	戸川村教育委員会	H14, 10, 15	
_	甲府市武田4-1-49	3.00 その他の遺跡(城下町)	申 -	個人住宅	中府市教育委員会	H14, 10, 17	~ H14. 10. I7
	甲府市大手3丁目3876-6	234.62 城下町	-	個人住宅	甲附市教育安員会	H14, 10, 23	
	中府市武田1-3-34 田兵士士田子1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-	城下町	半安・中世・立世	一个校局設面,中华人	甲桁巾教育安員完 田庇士勒吞系昌公	H14, 10, 23	~ HI4. II. 4
	中作市政田3」日415	イの信	보 보 부	個人狂光 個 - 条件	中的 中	1114 10 91	114.11.0
	中休市屋形3−1747−32,1747−31 □ 正在期末日間に係込む で置った 1	292.72 その他の遺跡(城下町)	. .	個人往光彩	中府市教育安員云	H14, 10, 31	~ H14, 10, 31
105 上の原遺跡 106 新計前南海珠	北口摩郡局限則其輪子上の原302~5分 市元件期中省町上向山今灣點の部1982~1均	5000.00 果洛跳 186.40 粉在地	親文·华女 編立·士培	道路 みの体間な(抽やホケ)	局依町秋月安貞云 由道町教育委員会	H14.10.9	~ H10.3.31 ~ H14 11 6
_	本/いんが十万四十二四日十段別の別1703~177-176年日 東京日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本		和人 口墳	この同田出(角の上こ) 追収	1. 是阿狄自女员公	H14 11 11	~ H14 11 15
108 梅田遺跡	平 日	240.00 集落跡	1.9	海 個人在宅	甲府市教育委員会	H14, 11, 11	
-	甲府市青葉町400-1,401,402-1,407		古墳	道路 宅地造成	甲府市教育委員会	H14.8.6	~ H14.10.10
110 堀ノ内遺跡	東八代郡八代町南917-1	29.00 不明	縄文·古墳·奈良·平安·中世·近世	その他建物(公衆トイレ)	八代町教育委員会	H14. 9. 25	~ H14.9.30

No 遺跡 名	所 在 地	面積(m²) 遺跡の種類	遺跡の時代	調 査 原 因	調査主体者	調3	全期 間
貴跡	北巨摩郡白州町.鳥原511外	1500.00 集落跡 城館跡	縄文・奈良・平安・中世	農業基盤整備事業(農道含む)	白州町教育委員会	H14. 11. 11	~ H15.3.31
112 延命寺遺跡	大月市駒橋1丁目506	435.00 散布地	縄文	学術研究	山梨県教育委員会	H14. 11. 19	~ H14.11.20
113 河口湖バイパス関連遺跡	南都留郡河口湖町井坪521-1外	_	奈良·平安·中世	道路	山梨県教育委員会	H14. 11. 18	~ H14. 12. 10
114 武田城下町遺跡	甲府市古府中町字古八幡1438-3,4	314.50 その他の遺跡(城下町)	中世	個人住宅	甲府市教育委員会	H14, 11, 14	~ H14.11.15
115 後呂遺跡	東八代郡中道町右左口字後呂3143-8	184.00 集落跡	縄文・弥生・古墳	道路	中道町教育委員会	H14. 11. 18	~ H14. 11. 29
116 上窪遺跡	中巨摩郡玉穂町下河東字細町549外	7351.00 不明	不明	土地区画整理	王穂町教育委員会	H14. 11. 26	~ H14, 12, 27
117 天神木遺跡	中巨摩郡玉穂町下河東字天神木978,980	1433.00 不明	不明	土地区画整理	玉穂町教育委員会	H14. 11. 22	~ H14. 12. 27
118 鞍掛遺跡	東八代郡一宮町 末木地内	493.00 集落跡	弥生·古墳·奈良·平安	道路	一宮町教育委員会	H14. 11. 5	~ H14. 12. 25
119 武田城下町遺跡	甲府市武田405	122.05 城下町	平安・中世	集合住宅	甲府市教育委員会	H14, 11, 28	~ H14.11.28
-	甲府市構根町946-1外	450.00 散布地	古墳・奈良・平安	全地住宅	甲府市教育委員会	H14.11.5	~ H14.12.1
	東八代郡一宮町 金田地内	875.00 集落跡	縄文・弥生・古墳	農業基盤整備事業(農道含む)	一宫町教育委員会	H14, 12, 3	~ H15.3.31
-	加斯斯成			その他の建物(県立博物館)	山梨県教育委員会	H14, 12, 2	~ H14. 12. 2
_	南戸摩郡身延町下山1578外	800.00 その他の遺跡(焔硝藏遺跡)	中中	保存目的の範囲確認	山梨県教育委員会	H14, 12, 9	~ H14, 12, 20
	直根町村二市割989		###	学術研究	山梨県教育委員会	H14, 12, 11	~ H15.1.22
	周天时,1月日日日3002 須干町字砂円幸前798—1外	300.00 散布地	縄文・平安・中世	#	須玉町教育委員会	H14, 12, 20	~ H15.3.30
	次付は1分115181155		かの他(不開)	工場	甲府市教育委員会	H14, 12, 20	~ H14, 12, 20
\rightarrow	甲碎古書華町406-3		古墳時代	個人住宅	甲府市教育委員会	H15.1.8	~ H15.1.8
	身延町大野物内	4100.00 その他の遺跡(堤防)	中世・近世・近代	三定	山梨県教育委員会	H15, 1, 21	~ H15.2.8
-	御坂町成田字大ネギ外	_	その他	その他の建物	山梨県教育委員会	H15, 1, 14	~ H15.1.14
+	八代町北977—1外	67.50 散布地	古墳·奈良·平安·中世	道路	八代町教育委員会	H14, 12, 4	~ H14. 12. 25
	甲府市屋形3-2480-7	8.00 城下町	中申	個人住宅	甲府市教育委員会	H15. 1. 16	~ H15.1.16
_	甲廃市朝日1-110		近世	個人店舗	甲府市教育委員会	H15. 1. 27	~ H15.1.27
-	境川村小黒坂28-1外	300.00 集落跡	縄文·古墳·平安	現別	境川村教育委員会	H15. 1. 21	~ H15.2.7
-	甲府市川田町字亀田158-3		古墳·奈良·平安·中世	関原	甲府市教育委員会	H15. 1. 14	~ H15.1.24
+	塩山市上井尻519外	5000.00 散布地	平安	帰り	塩山市教育委員会	H15. 1. 9	~ H15.1.31
-	甲府市和田町2434-1	8.00 散布地	古墳·奈良·平安	個人住宅	甲府市教育委員会	H15. 1. 28	~ H15.1.29
-	甲府市千塚4-3361-6,7	45.00 包蔵地	古墳	個人住宅	甲府市教育委員会	H15, 1, 29	~ H15.1.29
138 朝気遺跡	甲府市朝気2-651-17	164.87 集落跡	縄文・弥生・古墳・奈良・平安	開発に伴う個人住宅	甲府市教育委員会	H15. 1. 31	~ H15.1.31
139 塚越遺跡	甲府市国王896-1		平安	個人専用住宅以外すべて	甲府市教育委員会	H15. 2. 3	~ H15. 2. 3
140 六科·御崎遺跡	八田村六科162		平安・中世・近世	その他健物	八田村教育委員会	H15. 1. 30	
141 舞台遺跡	人田村德永1929	506.00 集落地	奈良・半安・中世	個人任光	八出村教育安員会	H15, 1, 31	~ H15, 2, 3
142 桂野遺跡	御坂町上黒駒2008-4外		縄文	国際	(開放 開教育委員会 , 你 」	H15. 1. 29	
143 和泉遺跡	八代町北1974外	22.50 散布地	古墳・奈良・半安・近世	直路	八代則教育安員会	H15. 1. 17	
144	甲府市宫原町桜林183-1外		古墳·中世	個人住宅	中的市教育会員会	H15. 2. 7	~ H15.2.7
145 武田城下町遺跡	甲府市天神町190	その街	1	個人任治	中竹巾教育安員会	H15. 2. 12	
146 西城仙遺跡	小淵沢町上笹尾3366	600.00 その他(牧場)	不明	展業基盤整備事業	山架県教育会員会工芸師工工芸師工工芸師工工芸師工工芸師工工芸師工工芸師工工芸師工工芸師工工芸師	H15. 2. 17	~ H15, 2, 17
	士想則下河東	田田田	徐良・半女 →==	日本日のピー	工作的教育安良方工作的教育	H15. 1. 29	~ HID. 5. 51
	上橋		小明 十葉 左立 亚尔	工地区画整理	工作的机队目安贝云	H15. 1. 29	~ H15.3.31
	即吸则吸出子干打守809%	3470.00 散布地	口惧, 尔及, 丁女 士培	九尚向亥庙 / 在分	甲烷市教育委員会	H15 2 21	
150 大仲四退跡	中的 11 1 7 3 4 - 3 2 4 - 3 H 1 1 2 4 2 - 3 H 2 1 8 H 2		山頂 松庄·士墳	面入门。面人内心	甲府市教育委員会	H15 2 12	~ H15.2.12
15. 車十並緊治域 車上被緊治域	〒四川 1 3 2 2 1 1 0 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		不明 不明	その他建物(介護老人保健施設)	上野原町教育委員会	H15.3.3	~ H15. 3. 28
_	本日本版本40-1		会 中 · 平安	学術研究	春日居町教育委員会	H15. 2. 18	~ H15.3.31
_	塩山市西等原金2外	その他	近現代	その他の建物(デイケアーセンター)	塩山市教育委員会	H15. 2. 28	~ H15, 3, 20
+	田富町布楠字古寺家2785-9	194.12 散布地	近世	個人住宅	田富町教育委員会	H15.3.6	~ H15.3.6
	甲府市屋形3-2498-4		中中	個人住宅	甲府市教育委員会	H15.3.10	~ H15, 3, 10
-	甲府市上町天神1502-1外	128.00 散布地	古墳·奈良·平安	集合住宅	甲府市教育委員会	H15.3.3	~ H15.3.12
158 上町天神遺跡	甲府市上町字土井1807-1	86.00 散布地	古墳·奈良·平安	集合住宅	甲府市教育委員会	H15. 3. 10	~ H15.3.14
159 堀ノ内遺跡	八代町南969-1	散布地	縄文·古墳·奈良·平安·中世·近世	集合住宅	八代町教育委員会	H15. 3. 10	
160 武田城下町遺跡	甲府市古府中町字日影3140外	4.00 その他の遺跡(城下町)	中中	個人住宅	中府市教育委員会	H15. 3. 20	
161 大手下,武田城下町遺跡	甲府市大手3-3648-1	1179.89 城下町	中田	名地造成	中府市教育委員会	m; €	~ H15. 3. 18
	甲府市和戸126	包蔵地	半安 "	その他健物(倉庫)ニニニニュー(本:コロケログ・セナル)	中的市教育安員会	H15, 3, 24	~ HI5. 3. 24
\rightarrow	大泉村谷戸字城上2929外	1949.00 その他の遺跡	網文·近世	その他開発(農村京観形队事業) mith	大泉村教育安員完 上自社 <u>机</u> 本条目公	H15, 2, 14	~ H15. Z. Z1
	大泉村西井出2894-1		網又・平安 二二 二十二 二十二二	個人任治	人系付教育安員完 事令 中心 中心 中心 中心 中心 中心 中心 中心 中心 中心 中心 中心 中心	H15. 3. 1/	~ HI5. 4. 25
165 前田遺跡	豊富村大鳥居1025外	140.20 散布地	縄文・弥生・古墳・半安・中世	農業基盤整備事業	豊昌村教育安貞芸	HI5. 3. 10	~ H15. 3. Z0



●路線バスご利用

甲 府一右左口(中道橋経由)考古学博物館で下車

●高速バスのご利用(2時間)

新宿西口……甲府南インター下車・徒歩10分

年 報 19

印刷日 平成 15 年 9 月 22 日

発行日 平成 15 年 9 月 30 日

発行所 山梨県埋蔵文化財センター

山梨県東八代郡中道町下曽根923

TEL $055-266-3881 \cdot 055-266-3016$

FAX 055-266-3882

印刷所 株式会社 少國民社

山梨県甲府市丸の内2-7-27

TEL 055-226-2125

